

No.81 >>> Contents

「カイコを育てよう！2024」のお知らせ

ー全国蚕糸関係博物館横断キャンペーンー

..... 一般財団法人大日本蚕糸会 ①

●トピックス

遺伝子組換えカイコのカルタヘナ法に基づく申請の概要と留意点について

..... 農林水産省 消費・安全局 農産安全管理課 組換え体管理指導班 ②

有機繭の生産と影森養蚕所の活動..... 影森養蚕所 久米悠平..... ⑥

養蚕研修に参加して..... ながすな繭株式会社 岸田裕紀..... ⑧

●研究・技術情報

令和5年の降霜による群馬県の養蚕被害状況について

..... 群馬県蚕糸技術センター 技術支援係 主幹専門員 木内英明..... ⑩

膿病再流行に備えるための防疫対策

..... (一財)大日本蚕糸会 蚕糸科学技術研究所 主任研究員 野澤瑞佳..... ⑫

●蚕糸・絹業団体情報

首里織の魅力と那覇伝統織物事業協同組合の紹介

..... 那覇伝統織物事業協同組合 理事長 吉浜博子..... ⑮

●蚕糸偉人の足跡を訪ねる

第8回「御法川直三郎」

..... 岡谷蚕糸博物館 ーシルクファクトおかやー 館長 高林千幸..... ⑮

●イベント情報

●一般財団法人大日本蚕糸会から

2023年度第4次分の純国産絹マーク使用許諾状況 ⑳

純国産絹マーク使用許諾者及び絹製品名一覧 ㉘

活動日誌 ㉚

●蚕糸絹関係博物館一覧

⑳

●蚕糸絹関係機関ホームページ一覧

㉑

●統計資料 (統計資料の詳細は統計資料目次をご覧ください。)

㉒

「カイコを育てよう！2024」のお知らせ

—全国蚕糸関係博物館横断キャンペーン—

一般財団法人大日本蚕糸会

趣旨

日本の蚕糸業は、養蚕、製糸、織物等が地域の重要な産業として発展し、蚕は人々にとって身近な存在でしたが、蚕糸業の衰退とともに目に触れる機会が少なくなっています。

こうした中で、各地の博物館では、地域の特徴を活かした展示・催事が開催されていますが、個別に実施されている「カイコ、蚕種の配布」活動を連携することで、かつて日本の産業を支えた蚕糸業を知ってもらうことを目的として、「カイコを育てよう！2024」の名の下に集うこととしました。

事業の内容

参加博物館が行う「カイコの配布」

※博物館毎に配付時期が異なります。詳しくは、各博物館のお知らせでご確認下さい。

統一されたポスター、チラシ、博物館キャラクターグッズ

感想をお寄せいただいた方へ抽選でプレゼントを用意

主催者等

主催：「カイコを育てよう！2024」実行委員会 一般財団法人大日本蚕糸会



2023年ポスター

参加施設（博物館）

(1) 群馬県立日本絹の里	群馬県高崎市
(2) シルク博物館	神奈川県横浜市
(3) 岡谷蚕糸博物館シルクファクトおやか	長野県岡谷市
(4) 駒ヶ根シルクミュージアム	長野県駒ヶ根市
(5) 西予市野村シルク博物館	愛媛県西予市
(6) 野外博物館 北海道開拓の村	北海道札幌市
(7) ジャパンシルクセンター	東京都千代田区

連絡先
一般財団法人 大日本蚕糸会
(TEL) 03-3214-3500
上原

遺伝子組換えカイコのカルタヘナ法*に基づく 申請の概要と留意点について

* 「遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律」

農林水産省

消費・安全局 農産安全管理課
組換え体管理指導班

遺伝子組換えカイコの活用により、新規形質のシルク素材の作出や有用タンパク質の製造が可能となってきました。こうしたことから、カルタヘナ法に基づく使用の手続きについて問い合わせが増えてきています。今回は、1では、遺伝子組換えカイコの第一種使用規程承認申請、2では、第二種使用等拡散防止措置確認申請についての概要と留意事項を参考までにご説明します。

1. 遺伝子組換えカイコに係る第一種使用規程の承認申請について（申請者向け）

遺伝子組換え生物等の「第一種使用等」とは、遺伝子組換え生物等の一般環境下での使用のことで、環境中への拡散の防止策を執らない、又は一部拡散を防止しながら行う使用のことです。例えば、遺伝子組換えカイコを日本国内の一般の養蚕施設で飼育する場合などが挙げられます。

第一種使用等については、使用に先立ち、日本国内で使用した際に生物多様性影響が生じないかを科学的なデータを基に学識経験者から評価を受ける必要があります。具体的な申請手続きについては、以下の法令通知を参考にしてください。

「遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律施行

規則」

https://www.maff.go.jp/j/syouan/nouan/carta/c_about/attach/pdf/reg_-10.pdf

「農林水産大臣がその生産又は流通を所管する遺伝子組換えカイコに係る第一種使用規程の承認の申請について」

https://www.maff.go.jp/j/syouan/nouan/carta/c_about/attach/pdf/reg_2-4.pdf

日本で第一種使用規程が承認されている遺伝子組換えカイコについては、遺伝子組換え生物等の第一種使用等の内容とともに第一種使用等の方法を定めています。第一種使用等の方法では、生物多様性影響を防止するため、必要な場合に限り、当該第一種使用等を行うに当たって執るべき措置について定めることとしています。遺伝子組換えカイコの場合は、使用等する者が一定の飼育技術を取得されていることが前提で評価されます。また、近縁野生種であるクワコとの交雑のリスクに対処するため、モニタリングが必要であり、以下の内容が規定されています。

- ①申請者が定めた飼育等要領に従って使用（飼育）者に飼育管理を徹底させること。
- ②申請者が策定したモニタリング計画書に基づき、遺伝子組換えカイコの全飼育地

で使用（飼育）者の協力の下に申請者がモニタリングを実施すること。

具体的には以下のとおりです。

(1) 飼育等要領に従った飼育管理の徹底

申請者は、申請時に遺伝子組換えカイコの飼育等要領を作成し、生物多様性影響評価検討会で評価を受ける必要があります。そして遺伝子組換えカイコを使用する者に対して、飼育や繰糸等を行う手順や施設、設備が飼育等要領で規定する同内容で実施すること、飼育や繰糸等を行う者は申請者が定めた研修を受けることを求めることとしています。さらに、管理が不適切な飼育者、製糸業者に対しては遺伝子組換えカイコの幼虫や繭の提供を停止することとしています。

（飼育等要領の項目例）

(1) 飼育に当たっての要件 (2) 運搬 (3) 稚蚕の飼育 (4) 三齢幼虫から繭の収穫までの飼育 (5) 繭を収穫した後の飼育室の管理 (6) 飼育残渣の管理 (7) 繰糸用の繭の管理 (8) クワコの発生時期の調査 (9) 遺伝子組換えカイコの使用に関する研修等

以下にカイコの宿主情報をまとめていますのでご参照ください。

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/nouan/carta/tetuduki/attach/pdf/index-12.pdf>

(2) 飼育地におけるモニタリング調査

カイコの近縁野生種であるクワコは、自然環境下の桑生育地周辺で生息し、我が国では薩南諸島の一部、沖縄諸島、先島諸島以外の各地に分布しています。遺伝子組換えカイコの飼育開始後に、クワコとの交雑個体が生じていないことを確認するため、当面の間、飼育地におけるモニタリングを、飼育された全箇所を対象として申請者が行

うこととしています。以下にクワコの基本的特性についてまとめていますのでご参照ください。

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/nouan/carta/tetuduki/attach/pdf/index-11.pdf>

また、現在までに、カルタヘナ法に基づき第一種使用規程を承認した遺伝子組換えカイコを以下にご紹介します（承認順）。e-Gov（電子政府）パブリック・コメントの結果公示案件を検索し、掲載資料や寄せられ意見等をご参照されることをおすすめします。

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/nouan/carta/torikumi/attach/pdf/index-47.pdf>

2. 遺伝子組換えカイコに係る第二種使用等拡散防止措置の大臣確認の申請について（申請者向け）

遺伝子組換え生物等の「第二種使用等」とは、遺伝子組換え生物等の環境中への拡散を防止しつつ行う行為のことです。例えば、遺伝子組換えカイコを大気、水系、土壌と遮断された工場内で飼養し、動物用医薬品原料となる蛋白質の生産を行うなどが挙げられます。

第二種使用等についても、使用に先立ち、環境中への拡散を防止するための措置（拡散防止措置）が適切なものとなっているか、確認を受ける必要があります。予定している第二種使用等が農林水産業に当たる場合は、農林水産省がその拡散防止措置を確認しています。具体的な申請手続きについては、以下の法令通知をご参照ください。

「遺伝子組換え生物等の第二種使用等のうち産業上の使用等に当たって執るべき拡散防止措置等を定める省令」

https://www.maff.go.jp/j/syouan/nouan/carta/c_about/attach/pdf/reg_-6.pdf

第二種使用等拡散防止措置確認申請手続きマニュアル（大臣確認申請書作成留意事項）〈遺伝子組換え動物編〉

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/nouan/carta/tetuduki/attach/pdf/index-15.pdf>

(1) これまでの確認実績を踏まえた、拡散防止措置としての設備・配置等での留意点

- ・ドア表示（「遺伝子組換え動物（カイコ）飼育中」等の表示、使用時以外常時閉鎖等の明記）を行うこと。
- ・必要によりドアの内側や窓の内側に○mm 網目の網戸又は防虫ネット、逃亡防止用粘着シート等這いだし防止用設備の設置を行うこと。
- ・オートクレーブ等の滅菌装置もしくは消毒設備（必要な場合）、遺伝子組換えカイコ等の不活化処理に使用する大型冷凍庫、オートクレーブ使用以外の冷凍処理や高熱処理等は、実際の規模と同一の手法・規模でのデータの提出が必要。
- ・排水口・水道やエアダクト等のあらゆる開口部及び飼育棚等飼育設備の拡散防止に関わる設備等の配置を検討すること。
- ・作業者は、無塵服（有色）のつなぎ・帽子等を着用し、誤って人為的にカイコ（幼虫）、蛹を作業区域外へ持ち出さないように、作業区域内に飼育室以外で無塵服を着脱出来るスペースを確保すること。退室時にカイコの付着の有無が単独でも確認できるように姿見鏡を設置すること。
- ・遺伝子組換えカイコの死体も含めた、糞や飼料残渣等の飼育室からの廃棄処理の方法及び手順、製糸工程中の繭中の蛹の

死骸、生糸くずなどが飼料等として流通しないように適切な廃棄を行う処理手順を記載すること。

- ・カイコ蛹の飼料・肥料等への自家消費以外の利用は、別途安全性評価等が必要になるので関係機関に相談の上必要な手続きを行うこと。

(2) 動物用医薬品（製造の中間工程で作られたものであって、以後の製造工程を経ることによって、製品となるものを含む。）の製造を行う場合

第二種使用等拡散防止措置確認申請の確認後に、医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律（昭和35年8月10日法律第145号）に基づく承認を受ける必要があり、同法において定めている製造施設の要件である「動物用医薬品製造所等構造設備規則（H17.3.29, 農林水産省令第35号）」に適合することが求められるので留意してください。

これまでに、農林水産省が拡散防止措置を確認し、問題ないと判断した事業者、遺伝子組換えカイコは26件で以下に大臣確認済み遺伝子組換えカイコの一覧を掲載します。

そのほか、具体的な申請等について不明な点があれば、必要に応じ下記にご相談ください。

■ 問い合わせ先：

農林水産省消費・安全局農産安全管理課
組換え体管理指導班
〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1
TEL：03-6744-2102（直通）

遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律
第 13 条第 1 項に基づく第二種使用等に係る拡散防止措置の確認の概要

○ 遺伝子組換え動物 205 件 うちカイコ 26 件 (令和 5 年 10 月 16 日現在)

	事業者名	遺伝子組換え生物等の種類の名称	確認日
1	群馬県蚕糸技術センター	HC-EGFP 遺伝子導入緑色蛍光タンパク質含有絹糸生産カイコ	平成 24 年 5 月 18 日
2	株式会社免疫生物研究所	コナヒヨウヒタ [®] ニ由来 Zen1 遺伝子導入タンパク質 [®] 産生カイコ 60-6 系統	平成 26 年 4 月 2 日
3	株式会社免疫生物研究所	コナヒヨウヒタ [®] ニ由来 Zen1 遺伝子導入タンパク質 [®] 産生カイコ 60-6 系統	平成 28 年 3 月 24 日
4	株式会社高原社	HC-EGFP 遺伝子導入緑色蛍光タンパク質含有絹糸生産カイコ	平成 31 年 3 月 27 日
5	株式会社あつまるホールディングス	HC-EGFP 遺伝子導入緑色蛍光タンパク質含有絹糸生産カイコ	令和元年 6 月 6 日
6	一般財団法人大日本蚕糸会	HC-EGFP 遺伝子導入緑色蛍光タンパク質含有絹糸生産カイコ	令和元年 6 月 28 日
7	群馬県蚕糸技術センター	HC-EGFP 遺伝子導入緑色蛍光タンパク質含有絹糸生産カイコ	令和元年 7 月 26 日
8	一般財団法人大日本蚕糸会	HC-EGFP 遺伝子導入緑色蛍光タンパク質含有絹糸生産カイコ	令和元年 8 月 19 日
9	株式会社あつまるホールディングス	HC-EGFP 遺伝子導入緑色蛍光タンパク質含有絹糸生産カイコ	令和元年 8 月 19 日
10	一般財団法人大日本蚕糸会	HC-Sirius 遺伝子導入青色蛍光タンパク質含有絹糸生産カイコ	令和 2 年 4 月 21 日
11	一般財団法人大日本蚕糸会	高染色性絹糸生産カイコ	令和 2 年 4 月 21 日
12	群馬県蚕糸技術センター	HC-Sirius 遺伝子導入青色蛍光タンパク質含有絹糸生産カイコ	令和 2 年 4 月 21 日
13	群馬県蚕糸技術センター	高染色性絹糸生産カイコ	令和 2 年 4 月 21 日
14	株式会社高原社	HC-EGFP 遺伝子導入緑色蛍光タンパク質含有絹糸生産カイコ	令和 2 年 4 月 21 日
15	株式会社高原社	HC-Sirius 遺伝子導入青色蛍光タンパク質含有絹糸生産カイコ	令和 2 年 4 月 21 日
16	株式会社高原社	高染色性絹糸生産カイコ	令和 2 年 4 月 21 日
17	株式会社あつまるホールディングス	HC-Sirius 遺伝子導入青色蛍光タンパク質含有絹糸生産カイコ	令和 2 年 4 月 21 日
18	株式会社あつまるホールディングス	高染色性絹糸生産カイコ	令和 2 年 4 月 21 日
19	群馬県蚕糸技術センター	HC-mAG 遺伝子導入改変緑色蛍光タンパク質含有絹糸生産カイコ	令和 3 年 5 月 19 日
20	群馬県蚕糸技術センター	HC-F90 遺伝子導入改変赤色蛍光タンパク質含有絹糸生産カイコ	令和 3 年 5 月 19 日
21	株式会社I・I・シー	ヒト由来 oxytocin 遺伝子導入タンパク質含有絹糸生産カイコ	令和 4 年 6 月 21 日
22	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構	高染色性絹糸生産カイコ	令和 4 年 6 月 21 日
23	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構	HC-mAG 遺伝子導入改変緑色蛍光タンパク質含有絹糸生産カイコ	令和 4 年 6 月 21 日
24	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構	HC-Sirius 遺伝子導入青色蛍光タンパク質含有絹糸生産カイコ	令和 4 年 6 月 21 日
25	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構	HC-F90 遺伝子導入改変赤色蛍光タンパク質含有絹糸生産カイコ	令和 4 年 6 月 21 日
26	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構	HC-EGFP 遺伝子導入緑色蛍光タンパク質含有絹糸生産カイコ	令和 4 年 6 月 21 日

農林水産省 HP (<https://www.maff.go.jp/j/syouan/nouan/carta/torikumi/attach/pdf/index-52.pdf>) 掲載事項抜粋

有機繭の生産と影森養蚕所の活動

影森養蚕所

久米悠平

弊所は埼玉県西部に位置する秩父市影森地区で全齢桑育にて養蚕を営んでいます。誰かに必要とされる養蚕を目指し、独自の絹文化が育まれてきた秩父の地から現代に融合する養蚕を実践しています。この度は貴重な機会をいただき弊所の活動の一部を紹介致します。

有機繭の生産

有機繭は令和4年度に農林水産省からの助成を受け、全国シルクビジネス協議会が制定した「有機繭の生産及び表示に係るガイドライン」に基づき生産されました。

弊所ではかねてより化成肥料や農薬は使用せず桑園管理を行い、全齢桑育にてお蚕の飼育をしていたため有機繭のガイドラインに限りなく近い方法で養蚕をしていました。

一つ気掛かりだったのはホルマリンを使用してはいけないという条件でした。今までもホルマリンを使用せずに飼育した事はありますが、慣れるものではなく神経をすり減らす思いで飼育に挑みました。

6月24日の掃き立てだったため夏蚕の時期特有で稚蚕期は梅雨、壮蚕期は酷暑の気候なので蚕病防除を徹底し飼育環境に気

を配っての飼育でした。昨年の夏は特に異常な暑さで、お蚕も作業する人間も狂ってしまいそうな毎日が続きました。つらい毎日でしたがお蚕に繭を作ってもらう事を考えると作業せざるを得ず、不思議と体は動き昔の人がお蚕様と呼ぶ訳にも納得できた様な気になりました。

地獄の様な毎日の中での作業にも応えてくれて、お蚕は無事に繭を作り目立った蚕病も見られずに出荷致しました。

有機製品に対する消費者への関心が高まっている事から今回の事業に至ったのだと思いますが、有機繭のシルク製品が蚕糸業界にとって前向きな変化になることを切に願います。

秩父地域での展開

秩父山系に囲まれた盆地の中で、独自の絹文化が育まれてきた秩父地域は養蚕と織物が共存している産地です。弊所の繭は秩父地域内の職人の手により糸となり、生地となり、皆様に身に着けていただく製品となっています。

生繭の状態です座繰りした無撚糸を経糸と緯糸に使用し織り上げる秩父太織ちちぶふとりは、柔ら



秩父太織ストール（影森養蚕所生産繭 100% 使用）

かな手触りと艶で多くの人を魅了する織物です。手軽に手洗いする事もできて、使う度に艶を増し自身で育てる絹織物であり素敵なお召し物に使っていただいています。

また、大正から昭和初期にかけて一世を風靡した銘仙の5大産地の一つであり、現在も現役で稼働している銘仙の織元が残っているのは全国でも秩父のみです。最近では秩父銘仙の織元さんからも「秩父産の繭で秩父銘仙を織ってみたいね」というお話もいただいております。実現に向けて活動しています。

同じ地域内に職人さんや織元さんがいらっしゃるおかげで、生産した繭の行先を見ることができるのは大変励みになっています。さらにその製品を自分が身に着けたり、お客様がお召しになっている姿を見られたりするのは養蚕農家としては最高に贅沢な環境であると感じています。

まだまだ紹介したい秩父地域での展開も



秩父地域内小学校での広報活動

ありますし、秩父地域に限らず全国各地に弊所の繭は旅をしております。ご興味がありましたらお気軽にホームページからお問い合わせください。

最後に

今後は自立した養蚕経営をしなければ、養蚕農家は減少を続け、消滅に向かうでしょう。大げさではなく数千年と続いてきた我が国の蚕糸の歴史が終わる危機です。仮に無くなるとしても考えられる対策は打ちたいと考えています。悲観的な意見を申しましたが、弊所の第一目標が「養蚕の存続」である以上、存続を目指し、その為の手段を実践していく所存です。

■ 問い合わせ先：

影森養蚕所ホームページ

<http://kagemoriyousanjo.com>

養蚕研修に参加して

ながすな繭株式会社

岸田裕紀

1 弊社での養蚕等について

私が所属しております、ながすな繭株式会社は、京都府京丹後市で繭からシルクパウダーやシルク成分の水溶液等の製造・販売を行っています。養蚕事業は令和3年9月から京丹後市の事業委託を受けています。京都工芸繊維大学で作られた無菌周年養蚕システムのノウハウを受け継ぎ、屋内で全齢人工飼料育をし、蚕種のふ化から取繭、乾繭までの工程を行っています。

京丹後市は丹後ちりめんの生産地です。①地元産の繭でちりめんを作り、伝統ある産業の振興を図ること、②繊維だけでなくシルク原料やサナギを活用するために品質の良い繭作りを目指すこと、③コスト削減のため自社人工飼料の開発や大量飼育のための機械化に向けて邁進している最中です。

私自身は、東海地区の出身で蚕という生き物は知っていても、見たことはありませんでした。数年前に旅行で長野県岡谷市の宮坂製糸所様を訪れた際、そこで飼育されていた蚕のかわいらしさに一目惚れしてしまいました。蚕を育てる仕事がしたいと強く思うようになり、2023年4月に転職をし、現在に至ります。

2 養蚕研修で学び、感じたこと

今回、2023年9月から40日間、蚕糸科学技術研究所で行われた、新規養蚕農家参入研修へ参加させていただきました。

蚕の飼育では、一度に6万頭というこれまで経験したことがない頭数の飼育や桑葉飼育にドキドキしていましたが、人工飼料の切り方や給餌方法、飼育室の環境、育成状況の確認方法等を丁寧に指導していただき、また、たくさんの研究所の方々のご協力もあり、安心して学びながら飼育をすることができました。

弊社では全齢人工飼料育を行っているため、給餌は重労働というイメージはありませんでした。ですから、今回の研修で4齢から5齢の間、数十キロから数百キロの桑葉が数時間で蚕に食べつくされてしまう様子を目の当たりにして、蚕の食欲の多さに大変衝撃を受けました。さらに、摘桑では桑の樹液で皮膚がかゆくなったり、摘桑した桑葉の束を運び、腰を痛めたりしながら1日2～3回の給桑を行い、桑園管理を含めた桑葉での飼育の重労働さ、大変さを痛感しました。しかし、小さな体でモリモリと桑葉を食べ、日々大きく成長する蚕の愛らしさはこの上なくたまらないものでした。

上族では、熟蚕を飼育室から上族室へ運び、簇に振り込む作業を行いました。飼育頭数が多くなるほど、上族は本当に時間勝負と感じました。回転簇は見るのも初めてだったため、天井から吊り下げられた簇の壮大さに驚き、簇に乗った蚕はマンションでよい物件探しをしているように見えてか



給桑



5 齡蚕

わいらしくもありました。そして、日光に当たり体が黄色く透けて見える熟蚕が蔭の中で繭を作っていく様子は、約1か月の飼育の集大成がここに詰まっているようで、何度見ても感動的で蚕の神秘さを一番感じます。大きく真っ白な繭を収繭し、カゴいっぱいになった様子に寂しさを感じつつも、蚕への感謝の気持ちでいっぱいになりました。

蚕種製造、遺伝資源、製糸、染色、生地の特性等の座学や見学では、蚕種ができるまでや特徴のある品種など普段見ることがない部分を実際見て、知ることができました。また、繭から製糸する流れや、染色や生地について知り、養蚕から生糸、絹織物へと一連の繋がりが分かるようになりました。

今回の研修では、私の他に2名の研修生の方が参加されており、各々が行っている飼育方法や課題点などさまざまな話をすることができ、よい経験となりました。

3 研修を終えて

研修に参加し、私は、より蚕が好きになり、蚕が大きくなりしっかりとした品質のよい繭を作ることができるよう、改めて蚕のために働こうと思いました。

長年人々と一緒に暮らしてきた蚕が作り

出すシルクは、昔からの糸や生地の魅力のほか、最新の研究成果で、さまざまな用途に使える性質を秘めた魅力あふれる素材です。しかし、現在は身近なものとはいえないため、年齢や性別を問わず、蚕やシルクがより身近に感じられるようになってもらいたいです。シルクを知るきっかけが蚕でも、生糸や生地、シルク成分の製品でも、どこかで気になってもらい、シルクを使いたいなと思ってもらうこと、さらには、養蚕、製糸や絹織物、新しいシルク製品の開発、蚕の研究等に関わる仕事に興味を持ってもらえるように、次世代に養蚕を繋げ、日本全国に広げていく活動の一端を京丹後市から発信し、担っていかれたらと思っています。そのような活動を行うためには私自身、まだまだたくさんの経験や勉強が必要ですが、養蚕を日本から失くしたくないという思いでがんばっていきたいです。

最後になりましたが、研修の実施、ご指導をいただきました（一財）大日本蚕糸会様、蚕糸科学技術研究所様、見学をさせていただいた農業・食品産業技術総合研究機構様、栃木県小山市J A およまの皆様、新菱冷熱工業株式会社様には心より感謝を申し上げます。

令和5年の降霜による群馬県の養蚕被害状況について

群馬県蚕糸技術センター
技術支援係

主幹専門員 木内英明

1 桑の生育状況

近年、地球温暖化が叫ばれ、桜の開花や桑の発芽などが早まる中で、春先は天候が安定しないために、桑園における晩霜（4・5月になって降りる霜）の危険度が増している状況にあります。

桑の発芽（脱苞）は2月以降の平均気温が10℃以上になると誘導され、桜の開花日と高い相関があることから（南澤吉三郎、栽桑学、鳴鳳社出版）、桑の生育予測には桜の開花を目安にすることが可能です。

令和5年の前橋市（群馬県南部）の桜の開花は3月18日、満開については1953年の統計開始以降最も早い3月24日と生育が進みました。桑も同様に生育が早く（脱苞4月4日、第1開葉4月8日）、凍霜害を受けた令和3年と同じような動きと気象状況であったことから（表1）、4月の養蚕担当者会議などを通してJA蚕業技術員や養蚕農家へ降霜の注意喚起を促しました。

表-1 桜の開花と桑の生育状況

区分	桜(前橋気象台:ソメイヨシノ)		桑(蚕糸技術センター:一ノ瀬)			
	開花	満開	脱苞	第1開葉	第3開葉	第6開葉
令和元年	3/27	4/7	4/14	4/18	4/21	4/26
令和2年	3/19	3/26	4/6	4/15	4/19	4/24
令和3年	3/21	3/28	4/5	4/11	4/14	4/20
			※4/6、10、11、27降霜(過去2番目の被害額)			
令和4年	3/27	4/1	4/12	4/14	4/17	4/23
令和5年	3/18	3/24	4/4	4/8	4/10	4/16
			※4/10、25降霜(過去3番目の被害額)			
平年	3/29	4/5	4/13	4/19	4/22	4/27

2 降霜による農作物等の被害状況

前橋気象台からの前橋・桐生地域への霜注意報（県南部注意期間3/27～5/7）は15回、利根・沼田地域への霜注意報（県北部注意期間4/3～5/20）は24回発令され、4月10日と25日に降霜被害を受けました（表1）。

4月10日は県南部で被害を受け、桑の被害については比較的軽微なもので済みました。4月25日は桑の生育も進み、県南部では4月10日に続き、2度目の被災を受けた桑園もあり、計画した春蚕掃立を取りやめる農家1戸と掃立量を減らす農家が数戸現れました。

県北部（利根・沼田地域と吾妻地域）では、りんごの開花時期とも重なり果樹で被害が大きく、凍霜害としては令和3年（97千万円）に次ぐ県内過去3番目の被害額となりました（表2）。

養蚕についても、県北部では、桑の生長点凍死など被害が大きく、降霜10日後でも副芽の再発芽が見られず（図1）、計画し

表-2 4月上旬～下旬の降霜による群馬県農作物等の被害状況

作物名	被害金額(千円)	被害面積(ha)	廃棄蚕児(蚕種)数量
果樹	824,769	192.8	
野菜他	11,301	34.9	
桑(養蚕)	718	3.5	9.75箱
計	836,788	231.2	※1箱2万頭換算

た春蚕飼育を中止せざるを得ない状況とな
ってしまいました(春蚕飼育中止農家3戸)。



図1 降霜10日後の状況

3 凍霜害対策

(1) 事前対策 (防霜対策)

防霜対策として、果樹では、灯油や固形燃料などを燃やして温度を高くする「燃焼法」や樹上から放水して植物体温を0℃以下にしないようにする「散水氷結法」、防霜ファンで風を送って地表の冷たい空気と比較的暖かい上層部の空気を攪拌する「送風法」などの対策を取る農家も散見されます。しかし、桑(養蚕)ではコストと労力面から、再発芽を促す善後策に頼らざるを得ない状況にあります。

(2) 事後対策 (善後策)

JA 蚕業技術員とともに被害状況の確認を行い、被害程度に応じた対策を以下により指導しました。

- ・被害の軽い桑園では、回復を待つ(図2)。
- ・被害が新芽全体に及んだ場合は、被害枝条の先端を切り詰め再発芽を促す(図3)。
- ・再発芽を促すため、即効性肥料の施肥を行う(硫酸アンモニウム = 10a 当たり 20kg 程)。
- ・モンシロドクガ幼虫など桑園害虫の発生により被害が助長されるので、早期防除に努める。



図2 軽症：このまま回復を待つ



図3 生長点の被害：副芽の再発芽を促す

4 今後の対応

果樹経営支援対策事業等による県内の防霜ファン導入戸数は過去10年で19戸だったものが、今回の凍霜害により、リンゴ農家を中心に防霜ファンの設置が本年度だけで24戸と進みました。養蚕農家での防霜ファン設置はありませんでしたが、養蚕経営の安定と被害の未然防止を図るため、群馬県農業共済組合と連携して、農業共済、収入保険制度への加入推進と被害頻度の高い桑園では防霜ファン等の設備の導入を模索して行きたいと考えています。

最後に令和6年は気象災害がなく、良質な桑葉が確保でき、蚕が丈夫に育ち、繭が豊作となることを願ってやみません。

膿病再流行に備えるための防疫対策

(一財) 大日本蚕糸会 蚕糸科学技術研究所

主任研究員 野澤瑞佳

1. はじめに

最近、核多角体病ウイルス (BmNPV) による膿病の被害が、以前に増して目立つようになりました。地域によっては、消石灰飽和液 (上澄み液) の利用により、ほとんど膿病が発生していなかったのですが、どのようなわけか、一昨年の初秋蚕期を境に、とつぜん膿病が多発するようになりました。“膿病再流行の兆し有り” ということで、今後どのような点に注意して膿病対策に取り組むべきか、これまでの経験を踏まえながら、その要点をまとめてみます。

2. 膿病再流行の兆し

令和4年の初秋蚕期に、人工飼料育の“錦秋×鐘和”が配蚕された複数の養蚕農家で3齢から“不眠蚕”が発生し、4齢から膿病のカイコが多発する“異常”な事態が起きました。その後の作柄も非常に悪く、被害に遭われた農家さんの話では、配蚕されたうちの一箱が全滅して、収量も半作以下になったそうです。皆さんもご存じのとおり、膿病の原因ウイルスがカイコに感染すると、感染から6日前後でカイコは膿病特有の症状 (不眠蚕や這い出し行動) を示すため、この症状が現れた日から遡ると、カイコにウイルスが感染したおよその時期を推定できます。



膿病による内部汚染繭の様子

今回のケースでは、3齢で不眠蚕が発生し、4齢で膿病が多発していることから、2齢の就眠から3齢の配蚕あたりで、カイコにウイルスが感染したと考えられます。配蚕前後のどの時点でウイルスに感染したのか定かではありませんが、これまで以上に、早い段階でカイコにウイルスが感染し

やすい状況になっているということは間違いありません。稚蚕～中蚕期にかけて、早い段階でカイコにウイルスが感染すれば、それだけ座内感染を繰り返す危険性が高くなり、養蚕農家の飼育関連施設は膿病のウイルスで汚染されやすくなります。更にウイルス防除が不十分であれば、慢性的な違作状態、すなわち常習違作に陥ります。膿病の被害が拡大するまえに、早急な対策が必要です。

3. 蚕種～製糸まで一斉防除の必要性

聞くところによれば、“錦秋×鐘和”で全齢人工飼料育を行っていた所でも、飼育の早い段階で膿病が発生していたようです。こうなると、蚕種もウイルスに汚染されないように種繭生産の段階から膿病対策に取り組む必要があります。種繭の段階で膿病による内部汚染繭が発生しないように防疫管理を強化すること、採種作業の過程で見つかる内部汚染繭を適切な方法で処分すること、浸酸処理を過信せず、蚕種を3%ホルムアルデヒドで30分以上浸漬消毒すること、卵面消毒後の蚕種の二次汚染が起こらないように清浄な環境で蚕種を乾燥するなど、これまで以上に細心の注意が必要です。稚蚕人工飼料育の最中に、外からウイルスが持ち込まれる可能性はかなり低いと思われませんが、蚕種や人工飼料を扱う際にも、作業上の不便さからついつい手袋を外してしまうことが無いように、作業者のちょっとした油断にも気を配る必要があります。

配蚕先の養蚕農家でも、配蚕前には必ず施設の消毒・洗浄作業を徹底し、配蚕直後のカイコを素手で拵座しないように注意する必要



配蚕前に組み終えた回転簇

があります。更に、配蚕前に回転簇の組み立て作業を完了させて、飼育と上簇準備を掛け持ちしないなどの配慮も必要です。

以外と見落とされやすいのが製糸工場かもしれません。養蚕農家の繭が集まる場所ですから、農家で膿病が多発した時は、製糸工場もウイルスで汚染されている可能性があります。製糸工場においても膿病を視野にいれた定期消毒を行い、大量に発生していると思われる選除繭の適切な処分（加圧滅菌するなど）や、農家に配布される繭袋の消毒についても、膿病に効果のある方法で行われているか点検する必要があります（すでに実践している場合にはご容赦下さい）。

これまで膿病は、養蚕現場で発生する蚕病ということで、農家の自助努力による防疫管理がとりわけ重視されてきました。しかし、膿病の原因ウイルスが、蚕種製造～製糸までのどこかの過程で残留していれば、膿病が再び養蚕現場で発生する可能性があります。そのため、膿病が流行して手がつけられなくなる前に、蚕種製造～製糸に至るまで、膿病のウイルスを標的とした

一斉防除を“定期的”に行い、日頃からカイコへの感染リスクを低く保つことが大切です。

そのためにはどのようなウイルス防除を行えばよいのでしょうか？次に、膿病のウイルスに効果のある消毒方法について述べます。

4. ウイルスの性状と有効な消毒剤

膿病のウイルスは、本体のウイルス粒子が通称、“多角体”とよばれているタンパク質の結晶中に包埋されています。この多角体が非常に厄介な存在で、ウイルス粒子を不活化（殺）してしまう様々な外的要因（紫外線、温湿度、薬品等）から保護しています。この多角体に包埋されたウイルス粒子は、上簇室のように薄暗い乾燥した環境下では、5か月間も病原性を維持する（清水・小森，1981）ことが知られています。このため、多角体中のウイルス粒子を不活化するためには、ホルムアルデヒドで多角体のタンパク質を固めてしまうか、消石灰飽和液などの強アルカリ液で、多角体ごとウイルス粒子を分解（周ら，1999）する必要があります。また、塩素系の“養蚕用除菌洗浄剤”のように、アルカリで多角体を溶解後、次亜塩素酸ナトリウムの作用でウイルス粒子を不活化する方法（野澤・代田，2012）もあります。ホルムアルデヒドや養蚕用除菌洗浄剤は、膿病のウイルス以外（細菌や糸状菌など）にも効果がありますが、膿病に限定する場合には、消石灰の飽和液が“コスト”と“消毒効果”の両面で最も優れています。ただし、散布後に、散布をした箇所が石灰で白くなりますので、追加洗浄の



小型動噴による消石灰飽和液の散布

必要性を感じるかもしれません。

蚕種の卵面消毒については、カイコで知られている全ての病原体（ウイルス、糸状菌、細菌、原虫）を対象に行うため、よほど特殊な事情がない限り、現状においてもホルムアルデヒドを使用することになります。その場合の調製濃度はホルムアルデヒドで3%、蚕種の浸漬時間は30～60分程度です。蚕糸の分野では、ホルマリンという表現を好んで使うため、3%ホルマリンと表現されることがよくありますが、ホルマリン原液を100%とみなした場合の3%液ではありません。ホルマリン原液（37%ホルムアルデヒド）の約12.3倍希釈液である点には注意が必要です。この調製を間違えると消毒効果が得られません。

蚕具の浸漬消毒については、飼育装置に張る飼育ネットや、除沙網、上簇網等が対象となります。浸漬消毒に用いる代表的な消毒剤は、次亜塩素酸カルシウム製剤（例えば日曹ケミクロンやハイクロン等）ですが、膿病多発時には、消石灰飽和液に網類を30分程度浸漬してから、網の材質に

応じて、二次的に次亜塩素酸カルシウム（0.2%）や塩化ベンザルコニウム（200倍液）に30分ほど浸漬できれば万全です。ここまで出来る方は限定されてしまうかもしれませんが、養蚕農家では浸漬消毒をしっかり行っている方は少数なので、慢性的に膿病が発生する場合には、浸漬消毒もぜひ行ってほしいと思います。

5. 膿病対策は実践あるのみ

研修会やシルクレポートで膿病対策のアドバイスを رفتても、現場で実践されなければ意味がありません。蚕糸を支える組織が縮小傾向にある中で、膿病の問題に向き合える関係者も年々少なくなることが予想されます。今後も養蚕を継続していくためには、膿病対策が導入しやすい飼育環境を整えたり、飼育施設の構造特性から消毒剤の種類を選択したりするなど、消毒・洗浄作業の手順を自分なりに考えて工夫することも必要です。この取り組みはカイコを飼う農家だけに限ったことではありません。蚕種製造～製糸に至るまで共通したことです。膿病を国内から撲滅するために、繭の生産に関わる関係者がどのような防疫対策を実践するか、それぞれの守備範囲で行動に移すことが何よりも大切です。

6. おわりに

最後は、少々厳しいことを書きましたが、膿病はカイコにとって大変厄介な伝染病であるという再認識が必要です。膿病のウイルスが再流行して手がつけれられない状況にならないように、蚕糸関係者が一丸となり、早めの対策と行動をとることが必要です。



消石灰飽和液による蚕室消毒の様子

そのためには、膿病の発生状況を共有する仕組みや、蚕病防除に必要な協力体制の構築、更には消毒作業に必要な動力噴霧機を借りられるような仕組みもできると良いと思います。

今年こそは膿病の発生が少ない年にしていきましょう。春蚕期からの豊作を期待しています。

文献：

- 周 垂欽・中垣雅雄・滝沢和也・津田英利・梶浦善太・武井隆三・岩下嘉光（1999）消石灰液によるカイコ核多角体病ウイルス（NPV）の不活化について。日蚕雑，68，201-207.
- 野澤瑞佳・代田丈志（2012）食品添加物から構成される養蚕用除菌洗浄剤の開発。蚕糸・昆虫バイオテック，81，213-220.
- 清水孝夫・小森三郎（1981）蚕ウイルスの自然不活化に及ぼす環境湿度の影響。長野蚕試要報，17，125-130.

過去のシルクレポートも参考にして頂ければ幸いです。拙筆ですが、ここで書ききれなかった膿病の防除に関する事柄をまとめてあります。

- ・内部汚染菌を減らすコツ. 2016年1月，49-53.
- ・消毒の作法－その1. 2018年4月，29-34.
- ・消毒の作法－その2. 2018年10月，17-20.
- ・消毒の作法－その3. 2019年4月，18-21.

首里織の魅力と那覇伝統織物事業協同組合の紹介

那覇伝統織物事業協同組合

理事長 吉浜博子

皆様もご存じの通り、工芸品と言えば真っ先に東京や京都をイメージすると思いますが、私達沖縄の工芸文化は他県に負けないくらい発展したと言われていています。その中でも織物は、最も高められた工芸であると言えるでしょう。

例えば、織りの種類の多さや緋の模様の変化、そして技法などその独自性は特筆されるものがあります。

2023年現在、全国で241品目が伝統的工芸品として指定されおり、織物は全国で38品目ある内の13品目が沖縄県の指定品目です。全国の約三分の一が沖縄県にあります。その中の一つが首里織です。

14～15世紀、琉球王国は東南アジア・中国と盛んに交易を行い、その交流により織りの技術を学び、幾百年と積み重ねられ、人々の努力によって沖縄の気候風土に育まれた多種多様な琉球織物の個性を生み出しました。

沖縄は「工芸の宝庫」と言われていますが、特に織物はそれぞれ特徴あるものが、県下各地で織り継がれています。その中でも、首里王府の城下町として栄えた首里では、王府の貴族、士族用に、色柄共に、究極まで追求された格調高く、悠々として麗美な織物が、織り継がれ現在に至っています。

紋織から緋に至るまで多彩に織られるのが首里織の特徴ですが、その中でも特に、花倉織や道屯織は王家、貴族専用とされ、首里でしか織られませんでした。



首里染織館 (suikara)

首里王府時代、首里織は主にその家の婦女子が家族のために織っていた織物です。王妃や、貴族、士族の女性達を中心に首里の地で織り継がれてきたのが首里織です。そのため当時は首里の女性達にとって機織りは最も重要な教養とされていました。

首里織は技法も多く多彩な織物です。伝統的工芸品として指定を受けているのは五つの技法です。

- 1 首里花倉織 2 首里花織 3 首里道頓織
- 4 首里緋 5 首里ミンサー

首里花織の中にも4種類あり

- ①両面浮花織 ②経浮花織 ③緯浮花織
- ④手花織 (ティーバナ)

首里緋の中にも3種類あり

- ①手緋 (ティジマ) ②綾の中 (アヤヌナーカー)
- ③諸取切 (ムルドウッチリ)

当組合では、首里織に相応しい製品制作



伸子張り

のため群馬県の碓氷製糸(株)より付加価値の高い純国産絹糸を仕入れています。織りあがって検査に合格した製品（着尺、帯地）には純国産の絹マークを貼付します。純国産絹マークを貼付する事により他産地との差別化となり、純国産絹糸の使用により商品の価格は上がりますが、繭から織りまで純国産で作られた貴重な織物としてお客様にも喜んでいただき、商品に対する確かさや信ぴょう性などの信頼度が増しました。

当組合は、1976年（昭和51）6月28日、那覇伝統織物事業協同組合として設立され、初代理事長は宮平初子氏 事務所は祝嶺織物研究所内に置きました。

その後、数回の移転を繰り返し、1985年（昭和60）2月桃原町に「首里織工芸館」を開設しました。1983年（昭和58）「首里織」として国の伝統的工芸品の指定を受け現在に至っています。

2022年（令和4）首里桃原町から首里当蔵町に移転し、琉球びんがたと首里織、両組合の新たな拠点として「首里染織り館 suikara」がオープンしました。

一階に全島の工芸の発信の役割を担う場があり、また琉球びんがたと首里織の販売を行うショップも併設されています。



suikara

二階は琉球びんがた事業協同組合が入っており、3階には那覇伝統織物事業協同組合が入っています。

首里織の組合員数は95名、実働数が約70数名で、平均年齢は50代前半です。

若くて活発で元気があり、帯や着尺のほかに小物商品作り、企業とのコラボ商品の開発にも積極的に関わっています。

昨年は「首里の織物保存会」の祝嶺恭子先生が重要無形文化財保持者（人間国宝）に認定されました。

組合員一同が喜びに沸いた事は言うまでもありません。首里織に携われる事に誇りを持ち一人一人が精進を誓った年でもありました。

2026年は組合設立50周年をむかえます。同じくして首里城の完成の年でもあります。組合員一同の新たな目標の発表の年となる事でしょう。

■ 問い合わせ先：

那覇伝統織物事業協同組合

<https://shuri-ori.com>

首里染織館 (suikara)

<https://suikara.ryukyu>

〒903-0812 沖縄県那覇市首里当蔵町2-16

第8回 「御法川直三郎」

岡谷蚕糸博物館 —シルクファクトおかや—
館長 高林千幸

はじめに

安政6年(1859)の横浜開港以来、生糸は輸出の主要品として外貨を稼ぎ、日本の近代化を押し進めてきました。生糸をつくる繰糸機は、明治初期、平野村(現岡谷市)の武居代次郎によりイタリア式繰糸機とフランス式繰糸機を折衷した諏訪式繰糸機が開発され、全国へ普及しました。

その後、独創的で豊かな発想を現実のものにしようとする一人の発明家が現れました。「繰糸機の革命」といわれている多條繰糸機を開発した^{みのりかわなおぶろう}御法川直三郎です(写真1・御法川直三郎翁自伝,1933)。彼は、明治37年に、それまでの繰糸技術の概念をすべて覆す世界初の20條繰りの「御法川式多條繰糸機」を開発しました。この繰糸機は、大正13年(1924)、片倉製絲紡績株式会社により実用化され、生糸の品質が飛躍的に向上し、生糸輸出に更に拍車がかかりました(片倉製絲紡績株式会社二十年誌,1941)。そして、この発明に触発され、他の機械メーカーも追随して多條繰糸機を開発し、その後の自動繰糸機の開発へと繋がっていくのでした(製糸技術保存シリーズ 片倉 K8 型自動繰糸機,2001)。

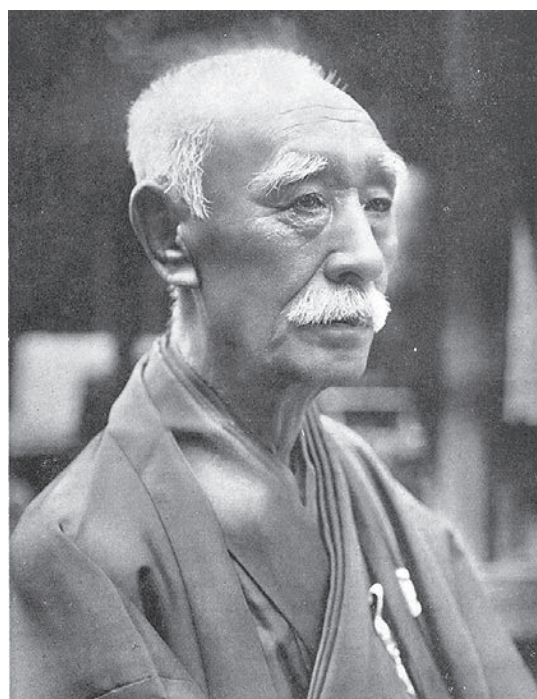


写真1 晩年の御法川直三郎

1. 御法川直三郎の生い立ちと研究心

御法川直三郎(安政3年(1856)―昭和5年(1930))は秋田城下の藩邸の御法川林太の次男として生まれ、幼くして父親を亡くし、母親の手一つで兄林平とともに育てられました。幼い頃から家業である蚕糸業に専心し、桑を育て、蚕を飼い、繭を乾燥し、糸を繰り、織物を織るといふ、栽桑から機織までを行っていました。そうした中で、桑の栽培法や蚕の飼い方が生糸や織物の品質に反映することを身をもって感じていました。そして、糸繰りで最も大切

な煮繭研究に14歳から3年間没頭します。

その後、彼は蚕種の製造・販売、微粒子病検査法の確立、乾燥器など様々な開発を手掛けながら、明治20年、32歳の時に東京西ヶ原の農商務省農務局蚕病試験場（現東京農工大学）へ伝習生として入場しました。このことが発明家としての天賦をさらに開花させていくのでした。

卒業後は、蚕病試験場の職員に採用され、繭乾燥機である「繭蛹熱殺器」を明治21年に発明しました（特許第365号）。明治18年に特許法が公布されてから、この機械が蚕糸に関する特許第1号となり、生産が間に合わない程売れました。

その後、座繰機・足踏式座繰器の改良、接緒器、絡交器、四條繰糸機、六條繰糸機、八條繰糸機、生繭冷蔵、太陽熱繭乾燥機等々の開発を行います。明治36年には十二條繰糸機を製作、これがわが国での多條繰糸機の嚆矢といえるものです。

2. 逆転の発想による御法川式多條繰糸機の開発

御法川直三郎の繰糸法に対する考えは、『蚕が糸を吐き、繭をつくる時のようなゆっくりとした速度で、糸を巻き取れば、繭糸本来の性質を損なわない生糸ができる。そうすれば生糸の糸質は向上し、繰糸中の繭糸の切断も少なくなり、繰糸能率も向上する』というものでした。

それまでの諏訪式繰糸機は、熱湯で繭を煮ながら浮いた状態で糸を繰り、高速で小枠に巻き取る再繰式で、4條から5條繰りが定番でした。御法川直三郎の発想は諏

訪式繰糸法とは総て逆とあってよく、沈繰あるいは半沈状態とし、高温から低温繰糸とし、諏訪式繰糸機の1/4から1/5の繰糸速度で大枠に直接生糸を巻き取るという直繰式じきそうとしました（その後再繰式に変更）。接緒方式はそれまでの繭糸の緒を手で投げ付ける方法から回転接緒機による機械式として効率化を図り、更に生糸の生産量を落とさないように、條数をこれまでの4～5倍の20條とし、座って繰糸をする方法から立って繰糸をする立繰方式としました。このように、これまで普通に使われていた諏訪式繰糸法と比べると正に「逆転の発想」と言うべきものでした。

3. 片倉製絲紡績株式会社の英断による御法川式多條繰糸機の实用化

御法川直三郎は、繰糸機に限って言えば、明治22年34歳の時に、足踏式製糸器械を発明して以来、75歳まで40年間開発を行ってきましたが、明治36年48歳の時に直繰式多條繰糸機を完成させて世間に問うた時、評価されることはあっても真剣にこれを取り入れてくれる製糸企業はありませんでした。

このことについて御法川直三郎は、「発明家が如何に心血を注いで完成したものであってもこれを真に理解して実際に使用する者がいなかったら、発明の目的を達することは不可能」と（御法川直三郎翁自伝,1933）言っています。

当時、片倉製絲紡績株式会社の副社長であった今井五介は、御法川直三郎と古くから親交があったため、御法川直三郎の工

舎（試験場）を頻繁に訪れ、詳細に直線式多條繰糸機を調査研究し、大正 10 年に埼玉の大宮工場と熊谷の石原工場に設置し、1 年間各種原料繭による生糸を用いて製織試験を行いました。得られた結果は、繰糸能率も、生糸の品位検査の成績も、予想をはるかに上回る良いものでした。これを受けて、今井五介は翌年、社内の異論反対を押し切り、大宮工場の諏訪式繰糸機をすべて御法川多條繰糸機（再繰式）に代えたのです（写真 2・片倉製絲紡績株式會社創立二十年記念寫眞帖,1941）。

この今井五介の英断と実行力により御法川式繰糸機で作られた生糸がアメリカへ輸出されると、絹業者からは、高級生糸「ワンダフル・ダイヤモンド・グランド・ダブルエキストラ」(Wonderful Diamond Grand XX)と格付けられます。ミノリカワ・ロウシルク (Minorikawa Raw Silk) は世界最高級の生糸として評価され、アメリカへの輸出が更に加速するのでした。

おわりに

発明家としての御法川直三郎を論ずる時に、その彼の成果は多種多彩ですが、その中でも御法川式多條繰糸機の開発は業界に強いインパクトを与え、その後、半田式・郡是式・鐘紡式・増澤式・織田式など多くのメーカーが次々と独自の多條繰糸機を開発しました。これらは、諏訪式繰糸機に代わる機械として全国に普及し、昭和 30 年代まで使われることとなります。

御法川式多條繰糸機は現在の自動繰糸機開発の原型となり、一人の発明家御法川直三郎と製糸家今井五介との二人三脚が投げた波紋が、世界へと広がっていくのです。

一人の発明家の飽くなき探求心が、現在の製糸技術の礎となったといっても過言ではありません。

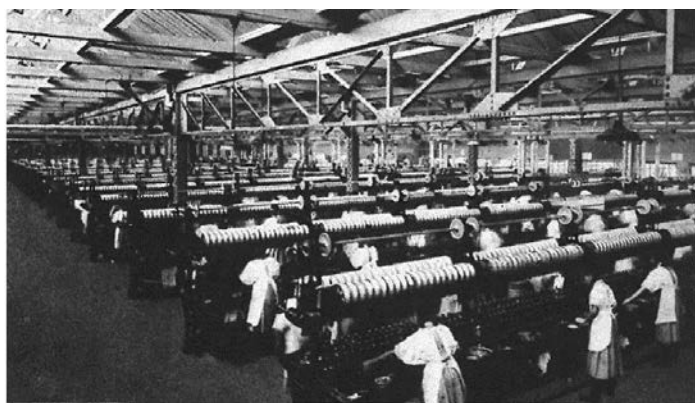


写真 2 片倉製絲紡績(株)に設置された御法川式多條繰糸機
(昭和 10 年代初期)

恩賜賞

東京府 御法川直三郎

明治二十年農商務省蠶業試験場を卒業するや熱心機械の發明考案に意を潜め先ず繭蛹熱殺器を發明して養蠶業者の利用に便し同二十六年始て鐵管使用汽熱乾燥器を案出し更に多管式及自動式乾燥器等を創製し大量乾繭の用に供し以て製絲業者に多大の利便を興へたり一面製絲機械の改良に腐心し明治二十二年座繰器械を發明して世の歡迎を受け當時米國市場に本邦生絲の絡交不良の聲喧しきを嘆じ同二十四年揚返綾振器を考案したるに需要頗る多く為に本邦生絲の聲価を挽回せしめ同二十七年鐵製製絲機械を發明し逐次幾多の改良考案を加へ又完全燃焼器を發明して工業經濟の發達に甚大なる效果を興へたり其間大日本蠶絲會の創立に盡力し或は蠶絲專修學校を設けて子弟を養成する等斯業の發達普及に效したる功績顯著なるを以て大正十年本會第一種功績賞を贈與し以て之を表彰したり爾來益々發奮砥勵敢て名利に拘泥せず寢食を忘れて製絲機械の改良考案に没頭し辛苦經營實用的價値の豊富なる再繰式多條繰糸機を完成し本邦製絲業界に多大の裨益を興へ更に進んで直繰式多條繰糸機を考案して將に其完成を見んとするが如き其蠶絲業上に貢獻せる功績寔に偉大なり仍て本會功績表彰規則に據り茲に恩賜賞を贈與し以て其功績を表彰す

大日本蠶絲會總裁大勲位功二級 載仁親王

イベント情報

●岡谷蚕糸博物館 企画展

「岡谷シルク展 新しいシルク文化が生まれるまちへ」

明治から昭和初期にかけて製糸業で栄えた岡谷市では、その歴史や文化を活かして養蚕、製糸、製品化までを岡谷で行う「岡谷シルク」を中心に、新しいものづくりや次世代の担い手づくりに取り組んでいます。今回の展示では、高校生制作のシルクドレスや担い手育成プログラム参加者によるシルクストール、岡谷シルク認証製品などをご紹介します。

〈会期〉 令和6年2月22日（木）～5月12日（日） 9:00～17:00

休館日：水曜日・祝日の翌日（3/20（水）、4/30（火）、5/1（水）は開館）

〈主催〉 岡谷蚕糸博物館 ーシルクファクトおかやー

〈会場〉 岡谷蚕糸博物館 〒394-0021 長野県岡谷市郷田 1-4-8

Tel: 0266-23-3489

<https://silkfact.jp/>

E-mail: hakubutsukan@city.okaya.lg.jp

●駒ヶ根シルクミュージアム 特別展

「2024 まゆクラフト作品展」

駒ヶ根シルクミュージアムでは毎年、全国の皆様に向けて公募した繭クラフト作品の展示会を開催しています。当ミュージアムで開催する「まゆクラフト作品展」として17回目の開催となります。繭を手に入れにくい御時世になりつつありますが、大勢の皆様のお力添えによって、これまで毎年、開催することが出来てきました。駒ヶ根シルクミュージアムで開催する「まゆクラフト作品展」が養蚕・繭作りの伝統・文化を伝承するとともに、新たな繭文化の創造の一助を担うことに、少しでもお役に立てればと考えております。ご観覧くださった皆様の多くに、作り手のアイデア・センスに溢れた作品の素晴らしさを味わっていただき、その感動を共有していただきます。

〈会期〉 4月18日（木）～5月21日（火） 9:00～17:00

休館日：水曜日

〈主催〉 駒ヶ根シルクミュージアム

〈会場〉 駒ヶ根シルクミュージアム 〒399-4321 長野県駒ヶ根市東伊那 482 番地

Tel: 0265-82-8381

<https://komagane-silk.com>

●日本絹の里 特別展

「カタコトの会展 型彫り、型染め、カタヤブリ！」

「カタコトの会」は、「型紙を作る人、使う人、愛する人が、年齢や技量、立場を超えてコトをおこそう」という趣旨で発足しました。型彫師、染織作家、研究者、着付け師、ライターなど様々な分野で活躍する会員の作品や活動をご紹介します。

〈会期〉 4月13日（土）～5月20日（月） 9:30～17:00

休館日：火曜日（祝日の場合は翌日）

〈主催〉 群馬県立日本絹の里

〈会場〉 群馬県立日本絹の里 〒370-3511 群馬県高崎市金古町 888-1

Tel: 027-360-6300

<https://www.nippon-kinunosato.or.jp>

●日本絹の里 企画展

「大竹夏紀展 Island In The Sun 水の女神」

自身の中に思い描く華やかな少女・女神達を蠟けつ染の技法を用いて独創的に表現する染色アーティスト大竹夏紀さん。本展では、「水」をモチーフに描き出された新作の大型作品を中心にをご紹介します。

〈会期〉 5月25日（土）～7月8日（月） 9:30～17:00

休館日：火曜日（祝日の場合は翌日）

〈主催〉 群馬県立日本絹の里

〈会場〉 群馬県立日本絹の里 〒370-3511 群馬県高崎市金古町 888-1

Tel: 027-360-6300

<https://www.nippon-kinunosato.or.jp>

●シルク博物館 春の企画展

「花嫁衣装—晴れの日の模様と彩り—」

シルク博物館は昭和34年（1959年）の開館から今日に至るまで、シルク製品やその関連資料を収集・保存し、さまざまなテーマから公開に努めてきました。

本展では、当館が所蔵する江戸時代から昭和時代にかけての花嫁衣装を中心に、祝儀に用いる染織品を多数展示いたします。各時代の艶やかな花嫁衣装に表された寿ぎの模様や色彩、意匠をお楽しみいただくとともに、時代を経て、染織技術の発展により可能となった幅広い表現や、新しい模様の組み合わせにもご注目ください。

〈会期〉 4月27日（土）～6月2日（日） 9:30～17:00（入館は16:30まで）

休館日：4/30（火）、5/7（火）、5/13（月）、5/20（月）、5/27（月）

〈主催〉シルク博物館

〈会場〉シルク博物館 〒231-0023 横浜市中区山下町1番地シルクセンター2階

Tel: 045-641-0841

<https://www.silkcenter-kbkk.jp/museum/>

【実演・ワークショップのご案内（4～6月）】

4月13日（土） 実演 手作り真綿

4月20日（土） 子ども向けワークショップ まゆ人形作り

4月27日（土） ワークショップ くみひもストラップ作り

5月4日（土） 子ども向けワークショップ まわた人形「あひるの親子作り」

5月11日（土） 子ども向けワークショップ まゆ人形作り

5月12日（日） 実演 手紬糸作り

5月25日（土） 子ども向けワークショップ まわた人形「あひるの親子作り」

6月1日（土） 子ども向けワークショップ かいことシルクの勉強会

6月8日（土） 子ども向けワークショップ まゆ人形作り

6月15日（土） ワークショップ くみひもストラップ作り

6月22日（土） 子ども向けワークショップ かいことシルクの勉強会

6月29日（土） 子ども向けワークショップ まわた人形「あひるの親子作り」

ワークショップの申し込みは事前予約制です。

詳細はシルク博物館ウェブサイトをご覧ください。

★イベント開催報告

岡谷蚕糸博物館 東京農工大学科学博物館連携展

「フランス式・イタリア式・そして諏訪式へ～VRでよみがえった葵町製糸場～」

会期：令和5年11月23日(木)～令和6年2月18日(日)

開催報告：

連携館の協定を結んでいるご縁で、観工寮葵町製糸場資料及び、VR、プロジェクトの歩みを展示いたしました。明治初期の製糸工場の図面として唯一の資料が目の前に広がりました。お雇い外国人ミューラーが指導した「イタリア式」の繰糸機、稼働する製糸工場の建築・設備を日本人が書き写したもので、未知の洋式技術を受容していく苦労がしのばれました。会期中齋藤特任助教による講演会を開催しました。プロジェクト報告と、イタリア式繰糸法の動力、熱源、水源、人員などについて岡谷の繰糸機と比較しながら熱のこもった会となりました。

群馬県立日本絹の里 特別展

「季節を巡る草木染 —移りゆく景 変わらぬ礎—」

会期：令和5年12月16日(土)～令和6年2月4日(日)

開催報告：

「草木染」は植物など天然のものから色素を得る染色方法です。本展では、長年にわたり草木染の研究と創作活動を行っている「草木屋」(山崎樹彦代表)にご協力いただき、四季折々に採れる染料の魅力と、豊かな意匠の着物・帯・タペストリーなどの作品をご紹介します。会期中は草木染ワークショップや草木染和紙を使った無料体験も開催しました。来館者からは「天然の色の鮮やかさに驚きました」「癒やされました」などの感動の声が多数寄せられました。

群馬県立日本絹の里

第25回「群馬の絹」展 ～観る、買う、装う、シルクとの出会い～

会期：2月8日(木)～12日(月・休)

開催報告：

「群馬の絹」展は、長い歴史と伝統に培われた染織や最新の加工、製造技術を駆使して創り上げた、優れた織物、ニット、工芸品などの絹製品を一堂に集めて皆様に広く紹介し、「群馬の絹」を体感していただき、蚕糸絹業の活性化、絹の需要拡大を図ることを目的に開催しました。期間中は特別に入館料無料とし、絹製品の展示・販売のほかにも、「きもの着付け体験」や、「藍染め」等の体験をとおして絹の魅力に親しんでいただきました。

シルク博物館

「たのしいかいこの発表会」

会期： 令和5年12月12日(火)～令和6年1月21日(日)

開催報告：

シルク博物館では、令和5年12月12日(火)から令和6年1月21日(日)まで「たのしいかいこの発表会」を開催しました。当発表会には幼稚園・保育園児や小学生の総勢1,017名の皆さんから計540点もの作品を出品いただき、蚕についての研究や観察記録、絵画、まゆ・生糸を使った工作等、素敵なアイデアや蚕への愛情いっぱいの力作に来館者の感嘆の声が聞かれました。また12月17日(日)に開催した表彰式へも大勢の出品者にご出席いただき、一年を通して蚕について深く学ぶ「チャレンジ！かいこプログラム」の集大成としてふさわしい展示会となりました。

駒ヶ根シルクミュージアム「第16回現代手織物クラフト公募展」

会期： 令和5年10月26日(木)～12月3日(日)

開催報告：

全国から寄せられた着物・反物・帯地・タペストリーの中から入賞・入選作品45点を展示し、展示作品の図録(頒布価格1,000円)を発刊しました。本公募展は、「全国で独自の創作活動をしている織物のプロおよび将来プロを目指す方たちが、創作したオリジナル織物作品を展覧し、広く織物愛好家に向けて紹介すると共に、自立の道を拓く支援の場となること」を目的として16年間開催してきました。諸般の事情で今回が最後となりました。長年本公募展を支えて来て下さった皆様方にお礼申し上げる次第です。

2023 年度第 4 次分の純国産絹マーク使用許諾状況

純国産絹マークの 2023 年度第 4 次審査委員会を 2024 年 2 月 22 日(木)に開催しました。今回の申請は 2 者で、新規申請者 1 者 1 品目、使用許諾されている 1 者のうち製品の追加 1 者 1 品目の申請がありました。これらの申請を審査委員会で審査した結果、2 者 2 品目に対し、2 月 29 日(木)付けで純国産絹マークを使用許諾する旨通知しました。

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (繭生産地・企業等)
(新規) (株) 錦 代表者名：鎌田九美夫 (担当者：鎌田九美夫) 〒 606-8126 京都市左京区一乗寺向畑町 8-2 TEL：075-711-7108 表示者登録番号 254	ジャケット	2 着	繭生産 埼玉県内養蚕農家 製 糸 松澤製糸所 染 色 (株) 会信織物 製 織 (株) 会信織物 縫 製 (株) ジェンツ
(製品の追加) 日本蚕糸絹業開発協同組合 代表者名：小林幸夫 (担当者：高橋賢一) 〒 370-0006 群馬県高崎市問屋町 3-5-3 TEL：027-361-2377 表示者登録番号 021	帯揚	300 枚	制作企画 絹小沢(株) 繭生産 群馬県内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸(株) 製 織 田勇機業(株) 精練加工 丹後織物工業組合 染色加工 染乃樹

次回の純国産絹マーク審査会の予定は次のとおりです。

純国産絹マークの使用許諾を申請される方は、事務局との事前協議を経た上で、下記の提出締切日までに、純国産絹マーク使用許諾申請書を提出してください。

次回審査会 2024 年度第 1 次：2024 年 5 月 28 日(火)

純国産絹マーク使用許諾申請書の提出締切日：2024 年 4 月 25 日(木)

(連絡先)

〒 100-0006

東京都千代田区有楽町 1-9-4 蚕糸会館 6 階

一般財団法人 大日本蚕糸会

担当：岡島、伊藤

TEL：03-3214-3500 FAX：03-3214-3415

E-mail：岡島：aokajima@silk.or.jp

伊藤：ito@silk.or.jp

純国産絹マーク使用許諾者及び絹製品名一覧

2024年2月22日(2023-第4次)現在

表示者 登録番号	企業名	所在地	主な絹製品名
001	(株)千總	京都市中京区	後染反物(振袖、訪問着、付下、色無地、色留袖、黒留袖、喪服)、胴裏
002	(株)織匠田歌	京都市上京区	先染反物、後染帯地
004	(株)丸上	東京都中央区	後染反物(色無地、小紋、付下、黒紋付)、後染帯地
005	(株)坂本屋	茨城県土浦市	後染反物(色無地)、胴裏(灰汁浸け加工)
006	(有)平原	福島県白河市	後染反物(色無地、黒紋付)
007	(株)信盛堂	東京都清瀬市	後染反物(色無地、黒紋付)
008	(株)きものアイ	新潟県十日町市	後染反物(色無地)
009	(株)上庵	岩手県北上市	後染反物(色無地、黒紋付)
010	(有)樹 (いづき)	秋田県横手市	後染反物(色無地、黒紋付)
011	(株)銀座もとじ	東京都中央区	後染反物(作家作品)、後染帯地、先染反物(大島紬、結城紬、御召、作家作品)、先染帯地(織九寸帯、織角帯、作家作品)、白生地、和装小物(帯締、羽織紐)、八掛、胴裏
012	河瀬満織物(株)	京都市上京区	先染帯地
013	(有)織匠小平	京都市北区	先染帯地
015	(株)結華	静岡県清水町	後染反物(色無地、黒紋付)
016	(有)絹回廊	東京都中央区	後染反物(色無地)
018	(有)大善屋呉服店	福島県会津若松市	後染反物(色無地、黒紋付)、後染帯地、白生地(表地)
020	呉服のささき	山形県天童市	後染反物(色無地、黒紋付)
021	日本蚕糸絹業開発協同組合 (絹小沢(株))	群馬県高崎市	裏地(胴裏(ぐんま羽二重、ぐんまレピア、ぐんま200、灰汁浸加工、トルマリン加工)、八掛、比翼地)、長襦袢地、後染反物(作家作品、紋付地)、白生地(世紀二一、上州絹星・ぐんま200、新小石丸)、後染帯地((冬物・夏物):うるしが5%を超えるもの)、寝衣(うぶ着、おくるみ)、和装小物(袱紗、帯揚)
022	宮階織物(株)	京都市上京区	先染反物、後染反物
023	21世紀の絹を考える会	京都府城陽市	後染反物(色無地、訪問着)、先染帯地(袋帯(草木染、唐織))
024	碓氷製糸農業協同組合	群馬県安中市	白生地、マフラー
025	丸幸織物(有)	京都府京丹後市	白生地
026	織匠万勝	京都市中京区	先染帯地(袋帯、名古屋帯、袋帯:金銀糸が5%を超えるもの)、先染反物(御召類、着尺)、後染反物(色無地)
027	(有)織道楽塩野屋	京都府亀岡市	洋装品(マフラー、シャツ、ニット(ウオーマー、腹巻、手袋、靴下))
028	(株)丸万中尾	滋賀県長浜市	後染反物(江戸小紋、小紋、付下、友禅、色無地、訪問着、留袖、色留袖)、後染帯地、白生地(表地)
029	(株)むらかぬ	青森県八戸市	後染反物(色無地、黒紋付)
030	(株)高島屋	大阪市中央区	後染反物(振袖、七五三着物、色無地、訪問着、黒留袖)、白生地(長襦袢地、胴裏)、ニット(靴下)、風呂敷
031	(株)さが美	神奈川県平塚市	後染反物(黒紋付(冬用・夏用)、色無地)

表示者 登録番号	企業名	所在地	主な絹製品名
032	(有) まるけい	静岡県富士市	後染反物 (色無地、黒紋付)
033	(有) 特選呉服専門店後藤	青森県むつ市	後染反物 (色無地、黒紋付)
034	(株) 小いけ	山形県鶴岡市	後染反物 (色無地、黒紋付、小紋)
035	(株) 伊と幸	京都市中京区	後染反物 (色無地、訪問着)、白生地 (表地、胴裏、帯地)、白生地 (表地 (天蚕糸交織))、白生地 (帯地 (天蚕糸交織))、婦人用ブラックフォーマル地、長襦袢
036	(株) 四季のきものおおにし	東京都杉並区	後染反物 (色無地、黒紋付)、後染帯地、白生地 (表地)
037	(株) 和幸	埼玉県久喜市	後染反物 (色無地、黒紋付)
038	(株) 榎屋高尾	京都市北区	先染帯地 (袋帯)
039	(株) つるや	埼玉県川越市	後染反物 (色無地、黒紋付)、白生地 (表地)
040	(株) 越後屋	千葉県市川市	後染反物 (色無地、黒紋付)
041	(株) 小倉商店	茨城県結城市	先染反物 (結城紬)、先染帯地 (結城紬)、白生地 (結城紬)
042	柳 崇 (染織家 柳崇)	東京都世田谷区	先染反物、先染帯地
043	児玉京子 (染織家 児玉京子)	沖縄県竹富町	先染反物、先染帯地
044	草木染工房山村 山村多榮子	東京都八王子市	先染反物、先染帯地、先染帯地 (金銀糸が5%を超える)、先染服地、ストール
045	手織りよおん 長嶺亨子	沖縄県沖縄市	先染反物、先染帯地、服飾品 (ストール)
046	祝嶺染織研究所	沖縄県沖縄市	先染反物、先染帯地
047	(株) 龍工房	東京都中央区	帯締
048	からん工房 深石美穂	沖縄県石垣市	先染反物 (紋組、緋)、先染帯地
049	たわた工房	沖縄県那覇市	先染反物、先染帯地
050	山音 (株)	京都市中京区	後染反物 (色無地 (変三越、駒組))
051	やまと (株)	京都市下京区	後染反物
053	桜井 (株)	京都市北区	先染帯地
054	有栖川織物 (有)	京都市上京区	先染帯地
055	太田和 (株)	京都市中京区	先染反物 (結城紬)、先染帯地 (結城紬)
056	(株) 岩田	京都市中京区	先染帯地
057	(有) 神原呉服店	千葉県銚子市	後染反物 (色無地、黒紋付)
058	浅山織物 (株)	京都市北区	先染帯地
059	(株) やまと	東京都渋谷区	先染帯地、先染帯地 (金銀糸が5%を超えるもの)、白生地 (加賀友禅用)、先染着尺 (加賀友禅用)、和装小物 (帯揚)
060	田中種 (株)	大阪市中央区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠)、黒紋付、加賀友禅、色無地、すかし織着尺)、後染帯地 (九寸名古屋帯)、ニット (靴下、ネック&ボディ、ショルダー、アーム、タンクトップ、腹巻、手袋、ピロケース、肌襦袢、ネックウォーマー)、真綿布団、ハーフケット、布団カバー
061	(株) 京扇	東京都中央区	後染反物 (色無地)、胴裏 (パールトーン加工)
062	(株) なごみや	横浜市都筑区	後染反物 (色無地、黒紋付)

表示者 登録番号	企業名	所在地	主な絹製品名
063	丸池藤井(株)	京都市中京区	後染反物(色無地)、八掛
064	久保商事(株)	京都市中京区	和装小物(帯揚、半衿)
065	加賀グンゼ(株)	石川県小松市	胴裏
066	千切屋(株)	京都市中京区	後染反物(訪問着、付下)、後染帯地
067	荒川(株)	京都市下京区	和装小物(帯締、帯揚)
069	(株)紅輪 (株)紅輪 まるやま・京彩 グループ	川崎市宮前区	後染反物(色無地)、白生地(表地(紋意匠))
070	装いの道(株)	東京都千代田区	白生地(帯地、表地)、胴裏(トルマリン加工、灰汁浸加工、ぐんま200、新小石丸)
071	(株)高橋屋	岩手県一関市	胴裏(灰汁浸加工)
072	おお又(株)	大阪市旭区	胴裏(灰汁浸加工)、ニット(靴下)
073	(株)天野屋呉服店	栃木県小山市	胴裏(ぐんま200(灰汁浸加工))、白生地(表地)
074	(株)きもの潮見	愛媛県西条市	胴裏(パールトーン加工)
075	(株)とみひろ	山形県山形市	胴裏(酵素精練)、白生地
076	(株)細安	福井県福井市	胴裏(酵素精練)
077	京和きもの(株)	神奈川県厚木市	胴裏(酵素精練)
078	(株)まるため	長野県長野市	胴裏(トルマリン加工、パーリー加工)
079	(株)小川屋	群馬県前橋市	胴裏(トルマリン加工、灰汁浸加工)
080	(株)エムラ	山口県防府市	胴裏(酵素精練)
081	(株)荒井呉服店	東京都八王子市	胴裏(酵素精練)
082	(株)牛島屋	富山県富山市	胴裏(酵素精練)、後染反物(小紋)
083	(株)谷呉服店	福岡県筑紫野市	胴裏(酵素精練)
084	(株)登美屋	岩手県北上市	胴裏(パールトーン加工)
085	(株)川平屋	愛知県豊田市	胴裏(パールトーン加工)、後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
087	(株)大丸松坂屋百貨店	東京都江東区	裏地(胴裏、比翼地(振袖用))、長襦袢地
088	西陣織工業組合	京都市上京区	マフラー、セーター、カーディガン、ショール、ネクタイ
089	(株)綾の手 (旧(株)あきやま)	宮崎県綾町	先染反物(綾の手袖)、洋装品(ショール、マフラー)
090	藤井絞(株)	京都市中京区	後染反物(色無地)
092	(有)結城屋	兵庫県洲本市	白生地(表地)
093	(株)ウメショウ	岐阜県瑞穂市	白生地(表地)
095	(有)カシワギ	山梨県富士吉田市	寝具寝装品(冬用・夏用・合用薄絹ふとん、ブランケット)、洋装品(スーツ地、ネクタイ、服飾品(スカーフ、ストール、シャツ))
097	(株)平田組紐	東京都豊島区	帯締、帯締(金銀糸が5%を超えるもの)、羽織紐(男物、女物)
098	(株)菱健	京都市中京区	後染反物(色無地)
099	西野(株)	京都市上京区	帯締、帯締(金銀糸が5%を超えるもの)
101	(株)猪井	新潟県長岡市	後染反物(色無地)、後染帯地

表示者 登録番号	企業名	所在地	主な絹製品名
102	(株) たちばな	新潟県新発田市	後染反物 (色無地)、後染帯地
103	(株) 丸富美	新潟県十日町市	後染反物 (色無地)
104	(有) 絹もの屋まつなが	新潟県三条市	後染反物 (色無地)
105	(株) 山正山崎	愛知県豊橋市	後染反物 (色無地、小紋 (変一越、紋意匠))
106	(有) こくぶん呉服店	福島県福島市	後染反物 (色無地)
107	(株) 染織近藤	岡山市北区	後染反物 (色無地、小紋 (変一越、紋意匠))
108	(株) 宮川呉服店	北海道湧別町	後染反物 (色無地、付下)
109	(株) 和らいふ	札幌市中央区	後染反物 (色無地)
110	(有) きものいなもと	大阪市天王寺区	後染反物 (色無地)
111	(株) 世きね	東京都中央区	後染反物
112	(株) 西陣まいづる	京都市上京区	先染帯地 (袋帯 (金銀糸が5%を超えるもの)、九寸帯 (金銀糸が5%を超えるもの)、絹九寸帯 (金銀糸が5%を超えるもの))
113	奥順 (株)	茨城県結城市	先染反物 (結城紬)、先染帯地 (結城紬)
114	りょうぜん天蚕の会	福島県伊達市	ショール (天蚕紬糸、天蚕ハイブリッド)
115	(有) 金屋	新潟県上越市	後染反物 (色無地)
116	(株) 鶴屋百貨店	熊本市中央区	胴裏 (酵素精練)、先染反物 (結城紬)
117	黄八丈めゆ工房	東京都八丈島	先染反物 (黄八丈)
118	京屋呉服店	長野県塩尻市	後染反物 (色無地)
119	(資) 車屋呉服店	横浜市南区	後染反物 (色無地、江戸小紋)、白生地 (表地)
120	宮崎 (株)	茨城県結城市	先染反物 (結城紬)
121	(有) 内海呉服店 きもの千歳屋	東京都世田谷区	白生地 (表地 (色無地、訪問着、紋意匠))
122	長島繊維 (株)	栃木県足利市	後染反物 (色無地、小紋、付下、訪問着)、後染帯地
123	(株) しょう美	広島市西区	後染反物 (色無地)
124	(資) 治田呉服店	群馬県富岡市	後染反物 (色無地)
125	(株) 丸十	大阪府東大阪市	後染反物 (小紋)、ニット (靴下)
126	(株) 竹田嘉兵衛商店	名古屋市緑区	胴裏 (酵素精練)
127	(有) 樋口屋京染店	埼玉県鴻巣市	白生地 (表地用 (紋意匠))
128	大門屋	福井県大野市	白生地 (牛首紬)、後染帯地 (牛首紬)、ショール (牛首紬)、先染反物 (飯田紬)、白生地着尺 (信州紬)
129	(株) 加藤萬	東京都中央区	和装小物 (帯揚、半衿)
130	(株) しゃらく	愛媛県新居浜市	後染反物 (小紋)
131	(資) 山中商店	名古屋市中区	後染反物 (小紋)
132	きもの処あだち	大阪府藤井寺市	後染反物 (小紋)
133	西川産業 (株)	東京都中央区	寝具寝装品 (掛布団)
134	繭工房華美	宮城県塩竈市	寝衣 (長肌着、短肌着)
136	(株) 和想	鳥取県鳥取市	後染反物 (小紋)
137	(株) 高島屋呉服店	島根県益田市	後染反物 (小紋)
138	富岡シルクブランド協議会	群馬県富岡市	ネクタイ、禪、マフラー (手織り)

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
139	(株) 丸年呉服店	石川県金沢市	後染反物 (小紋)
140	(株) 染織館	徳島県徳島市	後染反物 (小紋)
141	(株) 京ろまん	奈良県奈良市	後染反物 (小紋)、ニット (靴下)
142	五嶋 (株)	東京都文京区	帯締
143	(株) わふくや	浜松市中区	長襦袢地
144	(株) 布屋呉服店	静岡県富士宮市	胴裏 (トルマリン加工)、後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
145	(有) 明石屋	東京都調布市	後染反物 (色無地)、後染帯地
146	宮井 (株)	京都市下京区	風呂敷
147	(株) ナカノ	大分県大分市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠)、加賀友禅)
148	(株) 芦田呉服店	京都府綾部市	後染反物 (色無地、小紋 (変一越、紋意匠))
149	(株) 甲斐絹座	山梨県富士吉田市	ネクタイ、服飾品 (スカーフ、ストール、トランクス)、 パジャマ、袱紗
151	(株) 西松屋	兵庫県姫路市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
152	(株) 西尾呉服店	大阪市福島区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
153	勝山織物 (株)	京都市北区	先染帯地 (金銀糸が5%を超えるもの)
154	(有) 石川	群馬県みどり市	後染反物 (型友禅、羽二重色無地)、先染反物 (ジャガード織)
156	那覇伝統織物事業協同組合	沖縄県那覇市	先染反物、先染帯地、かりゆしウェア、服飾品 (ショール)
157	(株) ふじや	福岡県朝倉市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
158	きものおかだ	兵庫県香美町	後染反物 (小紋)
159	(株) JS	山梨県富士吉田市	寝具寝装品 (ふとん、ふとんカバー)、洋装品 (スーツ地、コート地、スカート地、シャツ、ワンピース地)、 服飾品 (スカーフ、ストール、ネックカバー、アームカバー、レッグカバー)
160	(株) マルシバ	東京都中央区	裏地 (胴裏)、和装小物 (袱紗、ネクタイ、帯地 (白塩瀬))
161	(株) みつわ	大阪府大東市	後染反物 (小紋)
162	福続織物 (株)	福岡市西区	先染帯地 (本袋男帯、八寸名古屋帯)
163	(株) 大谷屋	新潟市中央区	白生地 (表地)
164	(株) 東京藤屋 (きものレディ着付け学院)	東京都品川区	白生地 (表地)
166	近江真綿振興会	滋賀県米原市	寝具寝装品 (布団、膝かけ)、服飾品 (ショール)
167	(株) にしむら	兵庫県西脇市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
168	(有) きものおおにし	大阪府東大阪市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
169	(株) コノエ (そめの近江)	東京都豊島区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))、ニット (靴下)
170	(株) つたや	大阪府枚方市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
171	(株) 京呉服小糸伸輔の店	熊本市東区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
172	(株) マエノ	茨城県石岡市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
173	(株) 本きもの松葉	大阪府富田林市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
174	(有) 山田呉服店	長野県諏訪市	白生地 (変り縮緬)、先染反物 (大島紬)
175	(株) 呉服のながいけ	長崎県南島原市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))

表示者 登録番号	企業名	所在地	主な絹製品名
176	(株) 京呉服平田	福井県福井市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
177	(株) 布四季庵ヨネオリ	山形県米沢市	先染反物 (置賜紬)、服飾品 (ストール)
178	奄美島絹推進協議会	鹿児島県龍郷町	先染反物 (大島紬)、先染帯地 (大島紬)
179	(株) 宮坂製糸所	長野県岡谷市	先染帯地 (八寸名古屋帯)
180	(有) シンセイ	長野県松本市	ニット (腹巻、靴下)
181	(株) 百花	横浜市中区	後染反物 (小紋 (変一越))
182	京呉服好一 (株)	京都市北区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
183	(株) パールトーン	京都市右京区	胴裏 (パールトーン加工)
184	きもの専科まさ井	兵庫県三木市	後染反物 (小紋 (変一越))
185	マテリアル ローブ 磨	東京都練馬区	後染反物 (小紋 (変一越))
186	(株) せんば呉服	兵庫県尼崎市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠)、訪問着)、先染反物 (絰着尺)、後染帯地
187	(株) 三越伊勢丹	東京都新宿区	白生地 (表地)、帯締、羽織紐、帯締 (金銀糸が5%を超えるもの)、ジャケット地
188	青山きもの (株) (青山きもの学院)	東京都港区	白生地 (表地、夏物表地)
189	ニット青木 (株)	東京都品川区	ニット (スーツ・パンツ、スーツ・スカート、ジャケット、アンサンブル、インナー)
190	渡豊工房	山形県山辺町	先染反物 (綾御召 (男物、女物)、市松綾御召 (草木染め)、もじり織 (草木染)、もじり織、裏地 (紬八掛、駒八掛、紬駒八掛、紬綾八掛))、服飾品 (先染ストール (綾織草木染、もじり織草木染))
191	(株) リンクピース	福岡市博多区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
192	(有) 新宮 (きもの宮下)	宮崎県宮崎市	後染反物 (小紋 (変一越))
193	アトリエ I T O 伊藤峯子	沖縄県那覇市	先染反物、先染帯地
194	遊生染織工房 築城則子	北九州市八幡東区	先染反物
195	杉浦晶子	愛知県高浜市	先染反物、先染帯地
196	(株) 夢工芸染の新井	東京都足立区	白生地 (変り縮緬)、先染反物 (大島紬)
197	(株) 嗟が野	埼玉県川越市	白生地 (変り縮緬)、先染反物 (大島紬)
198	(株) カインドウェア	東京都千代田区	服飾品 (ストール)、ネクタイ
199	(株) 新田	山形県米沢市	後染反物 (ぼかし着尺)
200	(株) ソーホー	京都市下京区	白生地 (紋意匠無地縮緬・紋意匠縮緬)、後染反物 (本加賀訪問着)、先染反物 (大島紬、御召)、先染帯地 (袋帯)、先染反物 (御召)
201	(株) すずのき	東京都品川区	後染反物 (訪問着・色無地)、白生地 (表地 (紋意匠))
202	メーカーズシャツ鎌倉 (株)	神奈川県鎌倉市	ニット (肌着)
203	(株) 丸本岩崎	北海道函館市	裏地 (胴裏絹)
204	(株) 緒方商店 (きもの心おがた)	愛媛県八幡浜市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
205	富士新幸 (株)	山梨県都留市	真綿布団
206	(有) 浅井ローケツ	京都市右京区	後染反物 (色無地・藍染)

表示者 登録番号	企業名	所在地	主な絹製品名
207	(有) 呉服のうめね	北九州市小倉北区	白生地 (変一越)
208	(株) ADESSO (きもの工房一休)	神戸市中央区	白生地 (変一越)
209	森秀織物 (株)	群馬県桐生市	先染反物 (御召)
210	(株) 龍村美術織物	京都市中京区	先染帯地 (本袋帯 (金銀糸が5%を超えるもの))
211	(株) 長沼 (長沼静きもの学院)	東京都渋谷区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
212	(株) 国際商事	東京都板橋区	ショール
213	窪田織物 (株)	鹿児島県鹿児島市	先染反物 (大島紬、本場大島紬 (12 マルキ、15 マルキ))
214	村江菊絵 (菊江) (村江菊絵)	東京都目黒区	先染帯地、先染反物
215	片倉工業 (株)	東京都中央区	ニット (靴下)
216	村田捺染加工 (有)	群馬県桐生市	服飾品 (ストール)
217	(株) 京のきもの綾錦	京都市下京区	後染反物 (訪問着、小紋、色無地)
218	あや工房	沖縄県西原町	先染反物 (首里織)、先染帯地 (首里織)
220	万兵 (株)	名古屋市中区	白生地 (表地)
221	横山 (株)	京都市中京区	後染反物 (小紋・訪問着)
222	(株) カネヒサクリエーション	石川県金沢市	白生地 (表地)
223	柳晋哉	東京都世田谷区	先染反物、先染帯地
224	(株) 一声	京都市下京区	白生地 (表地)
225	(株) ヤマノホールディングス きもの事業本部	東京都渋谷区	後染反物 (小紋・訪問着)、白生地 (帯地、表地)
226	山口美術織物 (株)	京都市山科区	白生地 (表地・羽二重)
227	(株) 大翻	名古屋市中区	セリシン靴下、セリシン手袋
228	(株) 中忠商店	京都市上京区	セリシン靴下、セリシン手袋
229	(株) 帛撰	京都市北区	先染帯地 (名古屋帯、袋帯 (金銀糸が5%を超えるもの))
230	(株) 京朋	京都市中京区	白生地 (表地)
231	(有) 練巧	京都市北区	先染反物 (御召)、先染帯地 (名古屋帯 (組帯))
232	ウライ (株)	京都市下京区	後染反物 (小紋)、後染帯地 (袋帯 (表地のみ))
233	大橋メリヤス	群馬県桐生市	服飾品 (ニットストール)
234	宮田織物 (株)	京都市北区	先染帯地 (袋帯 (金銀糸が5%を超えるもの))
235	(有) 中彦	京都市上京区	先染反物 (御袷裳 (五条袷裳))
236	大月俊幸	長野県安曇野市	先染帯地 (名古屋帯)、先染着尺 (信州紬)
237	久保原由佳理	長野県安曇野市	先染帯地 (名古屋帯)、先染着尺 (信州紬)
238	(株) やしま	広島県広島市	白生地 (表地 (紋意匠))
239	(株) 長谷川	京都市上京区	先染反物 (西陣お召)
240	永見 (株)	鳥取県米子市	白生地 (表地 (紋意匠))
241	京都和装 (株)	京都市下京区	白生地 (表地 (紋意匠))
242	(株) 前田源商店	山梨県富士吉田市	服飾品 (スカーフ、ストール)
243	近江真綿工房 原田	滋賀県米原市	寝具寝装品 (真綿ふとん (国産近江真綿ふとん))
244	昭和西川 (株)	東京都中央区	寝具寝装品 (真綿ふとん)
245	大迫織物 (株)	鹿児島県鹿児島市	先染反物 (大島紬)

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
246	玉城柳子	沖縄県南城市	先染反物(着尺(首里織))、先染帯地(首里織)
247	丸八生糸 (株)	京都市上京区	白生地 (表地)
248	(株) 高島織物	京都市北区	白生地 (表地)
249	くらしつむぐあとリエ	福井県坂井市	白生地(表地、帯地)、服飾品(ストール)
250	UGAA I	東京都世田谷区	洋装服地
251	石川県立津幡高等学校	石川県河北郡	白生地(牛首紬)、白生地(帯地(牛首紬))
252	合同会社COCON	大阪府四條畷市	寝具寝装品(シュラフ型シルクシート、ナイトキャップ、手袋、靴下)
253	福和商事 (株)	東京都中央区	白生地 (表地)
254	(株) 錦	京都市左京区	洋装品 (ジャケット)

月日	活 動 内 容 等
1/24	第4回シルクの機能調査検討会 (全国シルクビジネス協議会の農林水産省補助事業関係) (東京都有楽町 蚕糸会館)
2/20	和文化シンポジウム (農林水産省及び和文化・産業連携振興協議会主催)
2/22	純国産絹マーク審査会 (2023年度第4次) (東京都有楽町 蚕糸会館)
2/26	令和5年度養蚕調査農家との情報交換会 (東京都有楽町 蚕糸会館)
2/29	第4回トレーサビリティシステム検討会 (全国シルクビジネス協議会の農林水産省補助事業関係) (東京都有楽町 蚕糸会館)
3/4	蚕糸の日決起会 (若手養蚕農家主催)
3/13	第3回シルクの普及検討会 (全国シルクビジネス協議会の農林水産省補助事業関係) (東京都有楽町 蚕糸会館)
3/19	通常理事会・臨時評議員会 (東京都有楽町 蚕糸会館)

蚕糸絹関係博物館一覧

名 称	〒	住 所	電 話
野外博物館北海道開拓の村	004-0006	北海道札幌市厚別区厚別町小野幌 50-1	011-898-2692
ひころの里「シルク館」	986-0782	宮城県本吉郡南三陸町入谷字桜沢 442	0226-46-4310
原始布・古代織参考館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 16	0238-22-8141
米沢織物歴史資料館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 87	0238-23-3525
夕鶴の里資料館 語り部の館	992-0474	山形県南陽市漆山 2025 - 2	0238-47-5800
松ヶ岡開墾記念館	997-0152	山形県鶴岡市羽黒町松ヶ岡 29	0235-62-3985
公益財団法人致道（ちどう）博物館	997-0036	山形県鶴岡市家中新町 10 - 18	0235-22-1199
酒田市美術館	998-0055	山形県酒田市飯森山三丁目 17 - 95	0234-31-0095
かわまたおりもの展示館	960-1406	福島県伊達郡川俣町大字鶴沢字東 13 - 1	024-565-4889
結城市伝統工芸館	307-0001	茨城県結城市大字結城 3018 - 1	0296-32-7949
紬の里	307-0001	茨城県結城市結城 2515	0296-32-8002
本場結城紬郷土館	307-0000	茨城県結城市浦町 116	0296-32-2121
本場結城紬染織資料館「手緒里」	307-0001	茨城県結城市結城 12-2	0296-33-3111
佐野市郷土博物館	327-0003	栃木県佐野市大橋町 2047	0283-22-5111
おやま本場結城紬クラフト館	323-0023	栃木県小山市中央町 3-7-1 ロブレビル 1F	0285-32-6477
足利織物伝承館	326-0814	栃木県足利市通 3-2589	0284-22-3004
足利まちなか遊学館	326-0814	栃木県足利市通 1-2673-1	0284-41-8201
足利織姫神社	326-0817	栃木県足利市西宮町 3889	0284-22-0313
那須野が原博物館	329-2752	栃木県那須塩原市三島 5 - 1	0287-36-0949
高崎市歴史民俗資料館	370-0027	群馬県高崎市上滝町 1058	027-352-1261
群馬県立歴史博物館	370-1293	群馬県高崎市綿貫 992 - 1（群馬の森公園内）	027-346-5522
おかいこステーション	370-3401	群馬県高崎市倉渕町権田 5344 - 1235	027-340-6060
群馬県立日本絹の里	370-3511	群馬県高崎市金古町 888 番地の 1	027-360-6300
富岡製糸場	370-2316	群馬県富岡市富岡 1 - 1	0274-64-0005
前橋市蚕糸記念館	371-0036	群馬県前橋市敷島町 262 番地（敷島公園バラ園内）	027-231-9875
織物参考館“紫（ゆかり）”	376-0034	群馬県桐生市東 4 丁目 2 番 24 号	0277-45-3111
桐生織物記念館（桐生織物協同組合）	376-0044	群馬県桐生市永楽町 6 - 6	0277-43-2510
コノドント館みどり市大間々博物館	376-0101	群馬県みどり市大間々町大間々 1030	0277-73-4123
たくみの里	379-1418	群馬県利根郡みなかみ町須川 784	0278-64-2211
群馬県立世界遺産センター（セカイト）	370-2316	群馬県富岡市富岡 1450-1	0274-67-7821
片倉シルク記念館	360-0815	埼玉県熊谷市本石 2 丁目 135 番地	048-522-4316
ちちぶ銘仙館	368-0032	埼玉県秩父市熊木町 28-1	0494-21-2112
秩父ふるさと館	368-0044	埼玉県秩父市本町 3-1	0494-23-7300
きもの芸術館（一般財団法人国際文化きもの学会）	150-0002	東京都渋谷区渋谷 1-6-8 清水学園ビル 6F～8F	03-3400-0286
文化学園服飾博物館	151-8529	東京都渋谷区代々木 3 - 22 - 7	03-3299-2387
調布市郷土博物館	182-0026	東京都調布市小島町 3 - 26 - 2	0424-81-7656
東京農工大学科学博物館	184-8588	東京都小金井市中町 2 - 24 - 16	042-388-7163
絹の道資料館	192-0375	東京都八王子市鎌水 989 - 2	0426-76-4064
桑都日本遺産センター 八王子博物館	192-0904	東京都八王子市子安町 4-7-1 サザンスカイタワー 3 階	042-622-8939

名 称	〒	住 所	電 話
町田市立博物館	194-0032	東京都町田市本町田 3562	042-726-7531
羽村市郷土博物館	205-0012	東京都羽村市羽 741	042-558-2561
シルク博物館	231-0023	横浜市中区山下町 1 番地シルクセンター内	045-641-0841
神奈川県立歴史博物館	231-0006	横浜市中区南仲通 5-60	045-201-0926
相模田名民家資料館	229-1124	相模原市緑区田名 4853 番 2 (大杉公園隣り)	042-761-7118
相模原市立博物館	252-0221	神奈川県相模原市中央区高根 3-1-15	042-750-8030
海老名市立郷土資料館「海老名市温故館」	243-0405	神奈川県海老名市国分南 1-6-36	046-233-4028
一般財団法人繊維産業会レインボープラザ(愛川繊維会館)	243-0307	神奈川県愛甲郡愛川町半原 4410	046-281-0356
愛川町郷土資料館	243-0307	神奈川県愛甲郡愛川町半原 5287 (県立あいかわ公園内)	046-280-1050
小千谷織物工房 小千谷織物同業協同組合	947-0028	新潟県小千谷市城内 1-8-25 小千谷市総合産業会館サンプラザ内	0258-83-2329
手織りの館	947-0028	新潟県小千谷市城内 1 - 8 - 25	0258-83-4800
十日町市博物館	948-0072	新潟県十日町市西本町 1	0257-57-5531
塩沢つむぎ記念館(織の文化館)	949-6408	新潟県南魚沼市塩沢 1227 - 14	0257-82-4888
白山工房(織りの資料館)	920-2501	石川県白山市白峰村又 17	076-259-2859
はたや記念館ゆめおーれ勝山	911-0802	福井県勝山市昭和町 1 - 7 - 40	0779-87-1200
豊富郷土資料館	400-1513	山梨県中央市大鳥居 1619 - 1	055-269-3399
須坂市立博物館	382-0028	長野県須坂市臥竜 2 丁目 4 番 1 号臥竜公園内	026-245-0407
常田館(絹の資料館)	386-0018	長野県上田市常田 1 - 10 - 3 笠原工業(株)内	0268-22-1230
繊維学部資料館	386-8567	長野県上田市常田 3-15-1 信州大学繊維学部内	0268-21-5454
上田市立博物館	386-0026	長野県上田市二の丸 3 番 3 号(上田城跡公園内)	0268-22-1274
上田市丸子郷土博物館	386-0413	長野県上田市東内 2564 - 1	0268-42-2158
絹糸紡績資料館	386-0498	長野県上田市上丸子 1078 シナノケンシ(株)内	0268-41-1800
長野県立歴史館	387-0007	長野県千曲市大字屋代字清水、科野の里歴史公園内	026-274-2000
海野宿歴史民俗資料館	389-0518	長野県東御市本海野 1098	0268-64-1000
日本司法博物館(松本歴史の里)	390-0852	長野県松本市島立小柴 2196 - 1	0263-47-4515
岡谷蚕糸博物館(シルクファクトおかや)	394-0021	長野県岡谷市郷田 1 丁目 4 番 8 号	0266-23-3489
駒ヶ根シルクミュージアム	399-4321	長野県駒ヶ根市東伊那 482 番地	0265-82-8381
安曇野市天蚕センター	399-8301	長野県安曇野市穂高有明 3618 - 24	0263-83-3835
美濃加茂市民ミュージアム	505-0004	岐阜県美濃加茂市蜂屋町上蜂屋 3299 - 1	0574-28-1110
豊田市稲武郷土資料館ちゅーま	441-2524	愛知県豊田市黒田町南水別 713	0565-82-3439
豊橋市民俗資料収蔵室	440-0021	愛知県豊橋市多米町滝の谷 34-1-1	0532-63-2026
三重中央農協郷土資料館	515-2504	三重県津市一志町高野 1204 - 1	059-293-0010
手おりの里、金剛苑	529-1204	滋賀県愛知郡愛荘町蚊野外 514	0749-37-4131
織物文化館	601-1123	京都市左京区静市市原町 265 川島織物セルコン内	075-741-4120
西陣織会館	602-8216	京都市上京区堀川通り今出川南入	075-451-9231
(公財)手織技術振興財団・織成館	602-8482	京都市上京区浄福寺通上立売上る大黒町 693 番地	075-431-0020
千總ギャラリー	604-8166	京都市中京区御倉町 80 番地千總本社ビル 2 階	075-211-2531
絹の白生地資料館	604-8176	京都市中京区龍池町 448 - 2 伊と幸ビル	075-254-5884

名 称	〒	住 所	電 話
まゆ村	616-8384	京都市右京区嵯峨天龍寺造路町	075-882-0564
グンゼ博物苑	623-0011	京都府綾部市青野町 グンゼ(株)周辺敷地内	0773-43-1050
織元田勇	629-3104	京都府京丹後市網野町浅茂川 112 田勇機業(株)内	0772-72-0307
上垣守国(うえがきもりくに)養蚕記念館	667-0321	兵庫県養父市大屋町蔵垣 246 - 2	079-669-1580
デザイン・クリエイティブセンター神戸(KIITO)	651-0082	神戸市中央区小野浜町 1-4	078-325-2201
西予市野村シルク博物館	797-1212	愛媛県西予市野村町野村 8 号 177 番地 1	0894-72-3710
蚕糸資料館	781-1301	高知県高岡郡越知町越知甲 1577 番地	0889-26-1002
藤村製絲記念館	781-6402	高知県安芸郡奈半利町乙 2630	0887-38-4711
美馬蚕糸会館	771-2107	徳島県美馬市美馬町谷口 5-1	0883-63-2502
アヤミハビル館	907-1801	沖縄県八重山郡与那国町与那国 2114	0980-87-2440

蚕糸絹関係機関ホームページ一覧

【行政】

農林水産省
経済産業省

<http://www.maff.go.jp>
<http://www.meti.go.jp>

【蚕糸絹業関係団体】

(一社) 日本絹人織織物工業会
(一財) 日本真綿協会
丹後織物工業組合
西陣織工業組合
TAFS (東京織物卸商業組合)
KOMS (京都織物卸商業組合)
(公財) 京都和装産業振興財団
(一財) 伝統的工芸品産業振興協会
全国シルクビジネス協議会

<http://www.kinujinsen.com>
<http://www.mawata.or.jp>
<http://www.tanko.or.jp>
<http://www.nishijin.or.jp>
<http://www.tafs.or.jp>
<http://www.fashion-kyoto.or.jp>
<https://www.wasou.or.jp>
<http://www.kougeihin.jp>
<https://japan-silk.org>

【大学・試験研究機関】

(国研) 農業・食品産業技術総合研究機構 <http://www.naro.affrc.go.jp>
(国) 北海道大学応用分子生物学分野応用分子昆虫学研究室 <http://www.agr.hokudai.ac.jp/rfoa/abs/abs2-1.html>
(国) 宇都宮大学農学部分子昆虫学研究室 <http://shigen.mine.utsunomiya-u.ac.jp/insectbiotechnology/>
(国) 東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻昆虫遺伝研究室
<http://papilio.ab.a.u-tokyo.ac.jp/igb/index-J.html>
(国) 東京農工大学農学部生物生産学科蚕学研究室 <http://www.tuat.ac.jp/~kaiko>
(国) 東京農工大学工学部生命工学科 <http://www.tuat.ac.jp/~seimei>
(国) 名古屋大学農学部 <http://www.agr.nagoya-u.ac.jp>
(国) 信州大学繊維学部 <http://www.tex.shinshu-u.ac.jp>
(国) 京都工芸繊維大学工学部応用生物学課程 <http://www.bio.kit.ac.jp>
(国) 鳥取大学農学部生物資源環境学科昆虫機能学教育研究分野 <http://muses.muses.tottori-u.ac.jp>
(国) 山口大学農学部生物資源環境科学科 <http://www.agr.yamaguchi-u.ac.jp/bioenvi/research2.html>
(国) 九州大学大学院生物資源環境科学府蚕学研究室 <http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/lab/sangaku>
(国) 九州大学大学院農学研究院遺伝子資源開発研究センター家蚕遺伝子開発分野
<http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/lab/sanshi/insect/top.html>
群馬県蚕糸技術センター <http://www.pref.gunma.jp/07/p14710007.html>
群馬県繊維工業試験場 <http://www.pref.gunma.jp/07/p20210013.html>
京都府織物・機械金属振興センター <http://www.pref.kyoto.jp/oriki>
(地独) 京都市産業技術研究所 <http://www.tc-kyoto.or.jp>
(公財) 衣笠繊維研究所 <http://krf-textile.com>

【学会】

日本シルク学会
(一社) 日本蚕糸学会
日本野蚕学会

<http://jssst.sakura.ne.jp>
<http://jsss.or.jp>
<https://jsws-yasan.com>

【博物館等】

(一財) シルクセンター国際貿易観光会館 シルク博物館
群馬県立日本絹の里
愛媛県西予市野村シルク博物館
東京農工大学科学博物館
駒ヶ根シルクミュージアム
岡谷蚕糸博物館 (シルクファクトおかや)
はたや記念館ゆめおーれ勝山

<https://www.silkcenter-kbkk.jp/museum/>
<https://www.nippon-kinunosato.or.jp>
<https://www.city.seiyo.ehime.jp/miryoku/silkhakubutsukan>
<https://www.tuat-museum.org>
<https://komagane-silk.com/>
<https://silkfact.jp>
<https://www.city.katsuyama.fukui.jp/hataya>

【博物館等】

美馬蚕糸館

<https://mimasanshikan.wixsite.com/mimasanshikan>

野外博物館 北海道開拓の村

<https://www.kaitaku.or.jp>

富岡製糸場

<https://www.tomioka-silk.jp/tomioka-silk-mill/>

群馬県立世界遺産センター

<https://worldheritage.pref.gunma.jp/whc/>

統計資料の年間掲載計画

＜国内＞	1月号	4月号	7月号	10月号
(1) 蚕糸絹業の概要	○	○	○	○
(2) 養蚕農家数	○	○	○	○
(3) 繭生産数量の推移	○	○	○	○
(4) 蚕期別、都府県別養蚕農家戸数		○		
(5) 蚕期別、都府県別繭生産数量		○		
(6) 蚕品種別蚕種製造数量の推移		○		
(7) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況	○	○	○	○
(8) 生糸の織度別生産数量の推移		○		○
(9) 絹需給の推移(生産量換算試算)	○	○	○	○
(10) 品目別・二次製品輸入数量(生糸量換算試算)		○		
(11) 製糸工場の原料繭需給	○	○	○	○
(12) 製糸工場の操業状況	○	○	○	○
(13) 生糸在庫数量の内訳	○	○	○	○
(14) 蚕糸関係品目別輸入状況		○		
(15) 生糸の原産国別輸入数量		○		○
(16) 絹糸の原産国別輸入数量		○		○
(17) 生糸・絹糸の主要輸入国からの輸入数量と単価		○		○
(18) 絹織物生産数量	○	○	○	○
(19) 丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量	○	○	○	○
＜海外＞				
(1) 世界主要国の家蚕繭生産数量	○	○	○	○
(2) 世界主要国の家蚕生糸生産数量		○		
(3) 中国繭絲綢交易市場における各種シルク現物価格	○	○	○	○

統計資料目次

<国内>

(1) 蚕糸絹業の概要	48
(2) 養蚕農家数の推移	49
(3) 繭生産数量の推移	50
(4) 蚕期別、都府県別養蚕農家戸数	51
(5) 蚕期別、都府県別繭生産数量	52
(6) 蚕品種別蚕種製造数量の推移	53
(7) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況	54
(8) 生糸の織度別生産数量の推移	55
(9) 絹需給の推移（生糸量換算試算）	56
(10) 品目別・二次製品輸入数量（生糸量換算試算）	57
(11) 製糸工場の原料繭需給	58
(12) 製糸工場の操業状況	59
(13) 生糸在庫数量の内訳	60
(14) 蚕糸関係品目別輸入状況	61
(15) 生糸の原産国別輸入数量	62
(16) 絹糸の原産国別輸入数量	63
(17) 生糸・絹糸の主要輸入国からの輸入数量と単価	64
(18) 絹織物生産数量	65
(19) 丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量	66

<海外>

(1) 世界主要国の家蚕繭生産数量	68
(2) 世界主要国の家蚕生糸生産数量	69
(3) 中国繭絲綢交易市場における各種シルク現物価格	70

一資料・国内一

(1) 蚕糸絹業の概要

Outline of Sericultural, Silk-Reeling, and Silk Fabric Industry in Japan

項目 Item 暦年 Calendar Year	養蚕業 Sericultural Industry			製糸業 Silk-Reeling Industry			絹業 Silk Fabric Industry	
	養蚕農家 戸数 Number of Silk- Raising Farmer	収繭量 Cocoon Production	1戸当 収繭量 Cocoon Production per Farmer	生糸 生産量 Raw Silk Production	運転 工場数 Number of Mills	稼働率 Operation ratio	絹人織機 設備台数 (保有台数) Number of Silk Loom	絹織物 生産量 Silk Fabric Production
	戸 Number	トン t	kg	千俵 1,000 Bale of 60kg	工場 Number	%	千台 1,000	千㎡ 1,000 sq. meters
2000	3,280	1,244	379	9.3	8	67	62.9	32,275
2005	1,591	626	393	2.5	10	62	43.7	19,816
2010	756	265	351	0.9	7	49	35.9	3,611
2011	627	220	351	0.7	7	52	34.7	3,152
2012	571	202	354	0.5	7	35	33.3	2,912
2013	486	168	346	0.4	9	35	32.0	2,940
2014	393	149	379	0.4	9	35	—	2,734
2015	368	135	367	0.4	8	30	—	2,316
2016	349	130	372	0.3	8	26	—	2,243
2017	336	125	372	0.3	8	28	—	2,195
2018	293	110	375	0.3	8	46	—	2,113
2019	264	92	348	0.3	8	36	—	1,939
2020	228	80	351	0.2	8	31	—	1,214
2021	186	61	328	0.2	7	20	—	1,319
2022	163	51	313	0.2	7	22	—	1,444
2023	146	45	308	0.2	7	33	—	—
前年比(%) 2023/2022	89.6	88.2	98.5	100.0	100.0	150.0	—	—

資料 ・ 2008年以前の養蚕業及び製糸業は、農林水産省調査によるものである。

- ・ 2009年以降の養蚕業は、全国農業協同組合連合会及び(一財)大日本蚕糸会調査、2011年以降は(一財)大日本蚕糸会調査である。
- ・ 2009年以降の製糸業は、中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会調査、2018年11月以降は(一財)大日本蚕糸会調査である。
- ・ 2008年以前の絹業は経済産業省調査であり、2009年以降絹業は(一社)日本絹人織機工業会調査である。

(注) 2006年以降の絹織物生産量は、絹紡織物を含む。

(注) 製糸業の運転工場数及び稼働率は器械製糸工場の操業状況であるが、2002年以降はすべての製糸工場のものである。

Source: ・ Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (MAFF) (Sericultural and Silk-Reeling, before 2008)

・ National Federation of Agricultural Co-operative Associations and the Dainippon Silk Foundation (Sericultural Industry, after 2009). The Dainippon Silk Foundation (after 2011)

・ Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association (Silk-Reeling, after 2009) The Dainippon Silk Foundation (after Nov. 2018)

・ The Ministry of Economy Trade and Industry (Silk Fabric, before 2008). Japan Silk & Rayon Weaver's Association (after 2009)

Note: Silk Fabric Production from 2006 includes spun silk fabrics.

Note: The number of operating mills and operation ratio are of machine reeling mills. (After 2002, all reeling mills)

(2) 養蚕農家数の推移

Farm households raising silk-worm

(単位：戸)
(Unit: number)

暦年 Calendar Year	項目 Item	年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 Early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm
2000		3,280	2,970	2,170	2,700
2005		1,591	1,420	1,061	1,345
2010		756	650	494	637
2011		627	562	358	531
2012		571	514	319	462
2013		486	422	260	399
2014		393	359	230	328
2015		368	323	221	313
2016		349	310	209	310
2017		336	307	201	280
2018		293	254	179	262
2019		264	233	153	224
2020		228	205	129	188
2021		186	161	98	156
2022		163	146	89	142
2023		146	126	78	130
前年比 (%) 2023/2022		89.6	86.3	87.6	91.5

資料：農林水産省統計情報部（～2001年） 全国農業協同組合連合会（2002年～2004年）

農林水産省生産局（2005年～2008年）（一財）大日本蚕糸会（2009年～）

Source: The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001).

National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004).

The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005～2008).

The Dainippon Silk Foundation (2009～).

(3) 繭生産数量の推移 Cocoon Production

暦年 Calendar Year	項目 Item	年計 Annual total				1戸当り収繭量 Cocoon production per farm household raising silk-worm			
		年間	春蚕	初秋蚕	晩秋蚕	年間	春蚕	初秋蚕	晩秋蚕
		Annual total	Spring silk-worm	Early autumn silk-worm	Late autumn silk-worm	Annual total	Spring silk-worm	Early autumn silk-worm	Late autumn silk-worm
		t	t	t	t	kg	kg	kg	kg
2000		1,244	500	320	424	379	169	148	157
2005		626	243	165	218	396	171	156	162
2010		265	107	60	98	351	165	121	154
2011		220	95	49	76	351	169	136	143
2012		202	79	50	73	354	155	156	159
2013		168	61	41	67	346	145	158	168
2014		149	55	36	58	379	153	157	176
2015		135	49	32	54	368	151	147	174
2016		130	47	32	50	372	153	155	162
2017		125	47	29	49	372	153	144	175
2018		110	41	24	46	375	161	134	176
2019		92	35	22	35	348	150	144	156
2020		80	31	19	30	351	151	147	160
2021		61	22	15	24	328	137	153	154
2022		51	20	13	18	313	137	146	127
2023		45	17	11	17	308	135	141	131
前年比 (%) 2023/2022		87.2	81.8	87.6	92.9	98.4	98.5	96.6	103.1
2023年 構成比 (%)		100.0	37.0	24.8	38.2				

資料：農林水産省統計情報部（～2001年） 全国農業協同組合連合会（2002年～2004年）

農林水産省生産局（2005年～2008年） （一財）大日本蚕糸会（2009年～）

Source: The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001).

National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004).

The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005～2008).

The Dainippon Silk Foundation (2009～).

(4) 蚕期別、都府県別養蚕農家戸数

Farm households raising silk-worm by prefectures

(単位：戸、%)

都府県名	春蚕期			初秋蚕期			晩秋蚕期			年 間		
	2022年 (R4)	2023年 (R5)	前年対比	2022年 (R4)	2023年 (R5)	前年対比	2022年 (R4)	2023年 (R5)	前年対比	2022年 (R4)	2023年 (R5)	前年対比
岩手県	4	4	100.0	4	3	75.0	4	4	100.0	4	4	100.0
宮城県	8	7	87.5	6	6	100.0	9	9	100.0	11	10	90.9
山形県	1	2	200.0	-	-	-	2	2	100.0	2	2	100.0
福島県	13	11	84.6	10	10	100.0	13	11	84.6	14	12	85.7
茨城県	3	3	100.0	4	2	50.0	4	3	75.0	4	3	75.0
栃木県	17	15	88.2	13	12	92.3	17	16	94.1	18	16	88.9
群馬県	55	45	81.8	30	27	90.0	53	53	100.0	59	55	93.2
埼玉県	11	9	81.8	8	7	87.5	10	7	70.0	11	9	81.8
千葉県	3	4	133.3	3	1	33.3	3	4	133.3	4	4	100.0
東京都	1	1	100.0	-	-	-	-	-	-	1	1	100.0
山梨県	1	1	100.0	-	-	-	1	-	-	1	1	100.0
長野県	9	6	66.7	3	3	100.0	9	6	66.7	11	9	81.8
岐阜県	5	4	80.0	-	-	-	6	4	66.7	8	6	75.0
愛知県	1	1	100.0	-	-	-	-	-	-	1	1	100.0
滋賀県	1	1	100.0	-	-	-	-	-	-	1	1	100.0
愛媛県	9	8	88.9	6	5	83.3	8	8	100.0	9	8	88.9
熊本県	2	2	100.0	-	-	-	2	2	100.0	2	2	100.0
宮崎県	2	2	100.0	2	2	100.0	1	1	100.0	2	2	100.0
全国計	146	126	86.3	89	78	87.6	142	130	91.5	163	146	89.6

資料：(一財)大日本蚕糸会

Source: The Dainippon Silk Foundation

(5) 蚕期別、都府県別繭生産数量
Cocoon production by prefectures

(単位：kg、%)

都府県等	春 蚕 期			初 秋 蚕 期			晚 秋 蚕 期			年 間		
	2022年 (R4)	2023年 (R5)	前年比 (%)	2022年 (R4)	2023年 (R5)	前年比 (%)	2022年 (R4)	2023年 (R5)	前年比 (%)	2022年 (R4)	2023年 (R5)	前年比 (%)
岩手県	373.0	246.2	66.0	256.3	247.1	96.4	487.7	442.8	90.8	1,117.0	936.1	83.8
宮城県	854.3	619.1	72.5	501.0	386.0	77.0	861.8	686.1	79.6	2,217.1	1,691.2	76.3
山形県	282.3	324.0	114.8	-	-	-	533.3	469.6	88.1	815.6	793.6	97.3
福島県	2,724.1	1,893.3	69.5	2,370.7	2,095.9	88.4	3,696.5	2,588.5	70.0	8,791.3	6,577.7	74.8
茨城県	357.7	356.0	99.5	353.9	164.2	46.4	320.5	271.0	84.6	1,032.1	791.2	76.7
栃木県	4,344.8	2,750.7	63.3	2,159.3	2,044.7	94.7	3,598.3	3,264.5	90.7	10,102.4	8,059.9	79.8
群馬県	7,174.6	6,403.4	89.3	4,899.7	4,446.3	90.7	5,952.5	6,991.8	117.5	18,026.8	17,841.5	99.0
埼玉県	1,586.0	1,341.7	84.6	710.7	635.2	89.4	946.6	970.8	102.6	3,243.3	2,947.7	90.9
千葉県	353.3	443.6	125.6	216.3	148.6	68.7	463.6	412.5	89.0	1,033.2	1,004.7	97.2
東京都	45.6	37.9	83.1	-	-	-	-	-	-	45.6	37.9	83.1
山梨県	116.0	285.0	245.7	-	-	-	42.3	-	-	158.3	285.0	180.0
長野県	565.0	407.8	72.2	345.0	311.4	90.3	562.5	265.5	47.2	1,472.5	984.7	66.9
岐阜県	281.7	251.8	89.4	-	-	-	14.3	62.5	437.1	296.0	314.3	106.2
愛知県	25.9	29.1	112.4	-	-	-	-	-	-	25.9	29.1	112.4
滋賀県	10.8	11.0	101.9	-	-	-	-	-	-	10.8	11.0	101.9
愛媛県	912.0	944.6	103.6	773.0	557.5	72.1	797.2	534.9	67.1	2,482.2	2,037.0	82.1
熊本県	95.6	104.0	108.8	-	-	-	77.2	77.0	99.7	172.8	181.0	104.7
宮崎県	107.2	73.4	68.5	54.1	39.0	72.1	21.5	25.0	116.3	182.8	137.4	75.2
全国計	20,209.9	16,522.6	81.8	12,640.0	11,075.9	87.6	18,375.8	17,062.5	92.9	51,225.7	44,661.0	87.2

資料：(一財)大日本蚕糸会

Source: The Dainippon Silk Foundation

(6) 蚕品種別蚕種製造数量の推移

Production by Sort of Silk-Worm Eggs

Item \ Year	2020年 (令和2年)		2021年 (令和3年)		2022年 (令和4年)		2023年 (令和5年)	
	箱 box	割合 rate %	箱 box	割合 rate %	箱 box	割合 rate %	箱 box	割合 rate %
錦 秋 × 鐘 和	1,593	29.9	1,630	36.3	1,480	32.8	1,140	31.3
春 嶺 × 鐘 月	1,274	23.9	884	19.7	704	15.6	680	18.7
ぐ ん ま 2 0 0	669	12.6	616	13.7	653	14.5	492	13.5
錦秋1号 × 鐘和1号	520	9.8	339	7.6	427	9.5	380	10.4
春嶺1号 × 鐘月1号	302	5.7	220	4.9	220	4.9	165	4.5
な つ こ	216	4.1	153	3.4	281	6.2	92	2.5
緑 繭 2 号	95	1.8	106	2.4	157	3.5	83	2.3
新 小 石 丸	81	1.5	122	2.7	132	2.9	81	2.2
お り ひ め	12	0.2	9	0.2	18	0.4	81	2.2
小 石 丸	56	1.1	48	1.1	101	2.2	80	2.2
松 岡 姫	85	1.6	55	1.2	40	0.9	70	1.9
ぐ ん ま 細	54	1.0	71	1.6	80	1.8	65	1.8
かいりょう × あけぼの	95	1.8	68	1.5	84	1.9	60	1.6
白 麗	20	0.4					40	1.1
プ ラ チ ナ ボ ー イ	51	1.0	41	0.9	34	0.8	32	0.9
玉 小 石	24	0.5	17	0.4	28	0.6	19	0.5
ぐ ん ま 黄 金	9	0.2	12	0.3	11	0.2	16	0.4
朝 日 × 東 海	15	0.3	28	0.6	22	0.5	13	0.4
太 平 × 長 安							11	0.3
青 熟 × C5・C6	10	0.2	5	0.1	6	0.1	10	0.3
黄 白	8	0.2	8	0.2	8	0.2	8	0.2
MCS107 × セヴェンヌ白	60	1.1	4	0.1	2	0.0	8	0.2
奄 美 黄 金	10	0.2	10	0.2	10	0.2	6	0.2
青 熟 × C5・505	11	0.2	10	0.2	7	0.2	5	0.1
N5・N6 × TY40	4	0.1	3	0.1	3	0.1	3	0.1
白 繭 細 1 号	52	1.0	21	0.5				
極 細 3 号			9	0.2				
合 計 Total	5,326	100.0	4,489	100.0	4,508	100.0	3,640	100.0

資料：(一財)大日本蚕糸会

Source : The Dainippon Silk Foundation

(7) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況

Raw Silk Supply / Demand Balance and Import/Export of Silk Yarn and Silk Fabric

項目 Item 年月 Year & Month	生 糸 Raw Silk					絹 糸 Silk Yarn		絹 織 物 Silk Fabrics	
	生産数量 Production (A)	輸入数量 Imports (B)	輸出数量 Exports (C)	国内引渡数量 Domestic Deliveries (D)	期末在庫数量 Ending Stocks (E)	輸入数量 Imports (F)	輸出数量 Exports (G)	輸入数量 Imports (H)	輸出数量 Exports (I)
	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	1000SM	1000SM
暦年 Calendar Year									
2015	378	6,479	0	7,194	1,410	14,051	302	5,468	5,085
2016	317	6,548	0	6,869	1,406	12,094	177	5,207	4,940
2017	339	7,560	1	7,557	1,747	14,560	245	4,897	4,785
2018	339	5,038	1	5,793	1,330	11,092	213	4,151	4,854
2019	269	4,852	4	5,018	1,429	10,920	165	3,893	4,750
2020	203	2,443	0	3,009	1,066	6,226	167	2,551	3,635
2021	160	3,067	0	3,425	868	6,136	144	2,753	3,850
2022	168	3,646	1	3,754	927	7,945	182	2,803	3,726
2023	154	2,936	0	3,157	859	7,495	137	2,515	3,213
2022 - 1	12	379	0	436	823	588	2	264	233
2	8	222	0	199	854	484	32	162	316
3	19	541	0	481	933	667	33	178	348
4	15	—	1	159	788	412	30	214	355
5	13	500	0	476	825	857	7	256	326
6	15	426	0	313	953	703	7	256	355
7	12	291	0	333	923	893	19	227	330
8	16	473	0	411	1,001	764	17	224	290
9	16	149	0	222	944	688	10	248	283
10	14	187	0	347	798	642	4	262	323
11	12	297	0	227	880	739	9	287	310
12	16	180	0	149	927	509	11	226	258
2023 - 1	13	271	0	345	866	650	10	209	182
2	10	179	0	270	785	309	10	118	285
3	14	295	0	272	822	705	15	221	316
4	17	—	0	142	697	514	9	222	292
5	14	460	0	504	667	742	2	221	289
6	15	221	0	126	777	791	12	205	291
7	11	218	0	280	726	578	23	230	258
8	11	354	0	290	801	742	6	227	251
9	10	198	0	221	788	681	14	216	257
10	11	218	0	193	824	599	20	224	265
11	12	364	0	382	818	658	10	214	255
12	16	157	0	132	859	526	6	208	272
2024 - 1	11	234	0	223	881	492	6	262	203

資料：(A) (C) (D) 中央蚕糸協会 (2012.12~2018.10) (一財)大日本蚕糸会 (2018.11~) (B) (F) (G) (H) (I) 財務省関税局

備考：1. 国内引渡数量(D) = {前月在庫数量+(A)+(B)} - {(C)+(E)}。

2. kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。

Source：(A) (C) (D) (E) Central Raw Silk Association (2012.12~2018.10). The Dainippon Silk Foundation (2018.11~)

(B) (F) (G) (H) (I) The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks：1. Domestic deliveries(D) = {Stock at end of the previous month+(A)+(B)} - {(C)+(E)}.

2. Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

(8) 生糸の織度別生産数量の推移
Raw Silk Production by Sizes

(単位：60kg俵)
(Unit：Bales of 60kg)

項目 Item	生 糸 Raw Silk					
	計 Total	18デニール以下 17/19or 17/19 finer	21デニール 20/22	27デニール 26/28	31デニール 30/32	その他 Others
年 月 Year & Month						
暦 年 Calendar Year						
2015	378	0	146	86	36	110
2016	317	0	98	103	38	78
2017	339	0	107	95	53	84
2018	339	0	106	104	65	63
2019	269	1	102	46	30	90
2020	203	1	51	76	4	71
2021	160	0	39	52	10	59
2022	168	0	38	50	12	68
2023	154	0	43	36	18	57
2022 -						
1	12	—	4	4	1	3
2	8	—	3	3	0	2
3	19	—	5	7	0	7
4	15	—	0	7	5	3
5	13	—	0	8	0	5
6	15	—	2	7	0	6
7	12	—	3	2	1	6
8	16	—	4	2	1	9
9	16	—	5	4	1	6
10	14	—	5	4	0	5
11	12	—	5	2	1	4
12	16	—	2	0	2	12
2023 -						
1	13	—	3	3	2	5
2	10	—	0	4	4	2
3	14	—	2	5	4	3
4	17	—	3	2	2	10
5	14	—	5	4	1	4
6	15	—	5	3	0	7
7	11	—	6	2	0	3
8	11	—	3	5	0	3
9	10	—	5	1	2	2
10	11	—	5	2	0	4
11	12	—	5	3	0	4
12	16	—	1	2	1	12
2024 -						
1	11	—	5	2	1	3

資料：中央蚕糸協会(2010.4~2018.10) (一財)大日本蚕糸会(2018.11~)

備考：kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。

Source：Central Raw Silk Association (2010.4~2018.10).The Dainippon Silk Foundation (2018.11~)

Remarks：Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

(9) 絹需給の推移 (生糸量換算試算)

Silk Supply and Demand Balance (Raw Silk Value Estimation)

(単位：千俵)
(Unit: 1,000Bales of 60kg)

項目 Item 暦年 Calendar Year	供給計 Supply Total ①								需要計 Demand Total ②=①-④						期末 在庫 Ending Stocks ④	
	期初 在庫 Opening Stocks	生産 Produc- tion	輸 入 Import					輸 出 Export				内 需 Domestic Demand ②-③				
			計 Total	生 糸 Raw Silk	絹 糸 Silk Yarn	織 物 Fabrics	二 次 The Second	計 ③ Total	生 糸 Raw Silk	絹 糸 Silk Yarn	織 物 Fabrics		二 次 The Second			
2000	376	119	9	248	39	32	28	149	263	16	0	0	14	2	247	113
2005	354	85	3	266	22	33	30	181	270	27	4	1	21	1	243	84
2010	225	47	1	177	12	16	16	133	182	16	0	0	15	1	166	43
2011	227	43	1	183	9	18	14	142	180	16	0	0	15	1	164	47
2012	230	47	1	182	10	16	14	142	184	15	0	0	14	1	169	46
2013	248	46	0	202	9	16	13	164	203	14	0	0	13	1	189	45
2014	225	45	0	180	8	15	12	145	180	14	0	0	13	1	166	45
2015	221	45	0	176	6	14	11	145	176	17	0	0	12	5	159	45
2016	240	45	0	195	7	12	14	162	195	15	0	0	9	6	180	45
2017	239	45	0	194	8	15	9	162	194	21	0	0	11	10	172	45
2018	205	45	0	160	5	11	8	135	160	26	0	0	10	16	134	45
2019	206	45	0	161	5	11	8	137	161	25	0	0	10	15	136	45
2020	182	45	0	137	2	6	6	123	137	27	0	0	8	19	110	45
2021	175	45	0	130	3	6	6	115	130	24	0	0	8	16	106	45
2022	173	45	0	128	4	8	6	110	128	22	0	0	8	14	106	45
2023	166	45	0	121	3	7	6	105	121	20	0	0	7	13	101	45
前年比 (%) 2023/ 2022	96	100	—	95	82	88	97	95	95	90	—	—	87	93	96	100

資料：蚕糸業需給・価格動向隔月報・繊維統計月報・日本貿易月報

備考：2013年から期末在庫を45千俵とする。

Source: "Silk balance and price situation monthly", "Trade Statistics"

(10) 品目別・二次製品輸入数量（生糸量換算試算）

Breakdown of Silk Second Products Imports (Raw Silk Value Estimation)

(単位：千俵)

(Unit: 1,000 Bales of 60kg)

項目 Item	暦年 Calendar Year	2019	2020	2021	2022	2023		
							前年比 (%) y/y	構成比 (%) ratio
布 は く 製 Product made in cloth	男子用外衣類 Men's upper garments	1.5	1.1	0.8	0.6	0.6	100.0	0.6
	女子用外衣類 Women's upper garments	85.1	78.4	69.3	63.4	59.5	93.8	56.5
	うちブラウス Blouse of the inside	0.7	0.6	0.8	0.5	0.4	80.0	0.4
	男子用下着・寝具衣料 Men's underwear・bedding cloth	2.3	1.8	1.8	2.2	3.8	172.7	3.6
	女子用下着・寝具衣料 Women's underwear・bedding cloth	20.5	20.3	21.1	20.5	20.0	97.6	19.0
	ハンカチ Handkerchief	0.2	0.1	0.1	0.2	0.2	100.0	0.2
	ショール、スカーフ類 Shawl, scarves	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—	—
	ネクタイ類 Ties	6.2	3.3	3.0	4.1	3.2	78.0	3.0
	メリヤス、クロセス編物 Knit. kurose knitting	3.6	3.9	4.4	4.6	4.4	95.7	4.2
	その他の洋装類 Other western clothes	14.1	11.5	10.8	11.0	10.6	96.4	10.1
洋装類計 Western clothes subtotal	133.4	120.3	111.4	106.5	102.2	96.0	97.0	
和装類計 Japanese clothes subtotal	0.9	0.9	0.9	1.0	0.7	70.0	0.7	
うち絹製の帯小物等 Silk obi accessorys of the inside	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—	—	
その他 Others	2.3	2.0	2.2	2.3	2.6	113.0	2.5	
合計 Total	136.7	123.2	114.5	109.8	105.4	96.0	100.0	

資料：財務省「日本貿易月報」

注)：ラウンドにより合計が一致しないことがある。

Source：The Customs Bureau, Ministry of Finance “Trade Statistics”

Note：Total may not added up due to round off.

(11) 製糸工場の原料繭需給

Balance of Cocoons as Raw Materials by Reeling Mills (単位：生繭. t)

(Unit: Ton by fresh weight)

年 月 Year & Month	項 目 Item	総 計 Grand Total		
		受入数量 Receipts	消費数量 Put in Process	期末在庫数量 Ending Stocks
暦 年 Calendar Year				
	2015	116	159	115
	2016	115	110	120
	2017	103	120	103
	2018	92	117	78
	2019	89	97	70
	2020	72	73	69
	2021	55	57	67
	2022	46	59	54
	2023	43	50	37
2022 -	1	0	4	62
	2	1	3	60
	3	0	7	53
	4	0	5	48
	5	1	5	44
	6	10	5	49
	7	8	5	52
	8	7	5	54
	9	1	6	49
	10	18	5	62
	11	1	4	59
	12	0	5	54
2023 -	1	0	4	49
	2	0	4	44
	3	2	5	41
	4	0	5	37
	5	0	4	33
	6	9	5	34
	7	10	4	40
	8	3	3	40
	9	1	3	37
	10	9	4	43
	11	3	4	42
	12	1	5	37
2023 -	1	0	3	34

資料：中央蚕糸協会(2012.12~2018.10) (一財)大日本蚕糸会(2018.11~)

備考：1.本表は上繭及び玉屑繭の合計である。

2.受入数量=本月末在庫数量+消費数量-前月末在庫数量。

Source：Central Raw Silk Association(2012.12~2018.10).The Dainippon Silk Foundation(2018.11~)

Remarks：1.This table includes reelable,doupion and waste cocoons.

2.Receipts=(Ending stocks of the current month)+(put in process)-(Ending stocks of the preceding month).

(12) 製糸工場の操業状況
Activities of Reeling Mills

年 月 Year & Month	項 目 Item	運転工場数 Operating Reeling Mills	設 備 数(台) Reeling Machines		運 転 率 (%) Operating Ratio	操業日数 Days Operated	従業者数 Number of Workers
			運転可能 Operable	運 転 Operating			
暦 年 Calendar Year							
	2015	8	110	33	30	263	53
	2016	8	110	29	26	267	55
	2017	8	110	31	28	266	59
	2018	8	74	34	46	253	57
	2019	8	74	27	36	239	51
	2020	8	74	23	31	218	48
	2021	7	74	15	20	214	43
	2022	7	64	14	22	230	41
	2023	7	44	15	34	235	41
2022 -	1	6	74	10	14	15	35
	2	6	74	14	19	14	35
	3	6	74	17	23	23	35
	4	6	74	19	26	19	35
	5	6	74	16	22	17	34
	6	6	74	12	16	21	34
	7	6	74	13	18	22	36
	8	6	74	13	18	18	33
	9	7	44	18	41	21	41
	10	7	44	13	30	21	40
	11	7	44	12	27	19	40
	12	7	44	14	32	20	41
2023 -	1	7	44	15	34	16	42
	2	7	44	16	36	17	40
	3	7	44	17	39	21	42
	4	7	44	15	34	21	34
	5	7	44	15	34	21	34
	6	7	44	17	39	21	44
	7	7	44	15	34	22	44
	8	7	44	12	27	16	41
	9	7	44	12	27	19	41
	10	7	44	13	30	22	41
	11	7	44	16	36	20	41
	12	7	44	13	30	19	41
2024 -	1	7	44	14	32	17	41

資料：中央蚕糸協会(2012.12~2018.10) (一財)大日本蚕糸会(2018.11~)

備考：1. 設備数中の運転可能及び運転台数は毎月の算術平均である。

2. 運転率は運転可能台数に対する運転台数の比率である。

3. 従業者数は期末現在の在籍従業員数である。

Source : Central Raw Silk Association(2012.12~2018.10).The Dainippon Silk Foundation (2018.11~)

Remarks : 1.The number of operable and operating reeling machines is arithmetic means of monthly figures.

2. Operating ratio means ratio of operating machines in operable machines.

3. Number of workers are those on payroll as of end of period.

(13) 生糸在庫数量の内訳
Breakdown of Raw Silk Stocks

(単位：60kg俵)
(Unit: Bales of 60kg)

項目 Item	計 Total	製糸工場 Filatures Mills	生糸市場外 売買業者 Domestic Dealers	生糸輸出入業者 Ex and Importers
年月 Year & Month				
暦年 Calendar Year				
2015	1,410	94	1,316	
2016	1,406	130	1,276	
2017	1,747	156	1,591	
2018	1,330	230	1,100	
2019	1,429	238	1,191	
2020	1,066	178	888	
2021	868	170	698	
2022	927	127	800	
2023	859	144	715	
2022 - 1	823	163	660	
2	854	160	694	
3	933	163	770	
4	788	160	628	
5	825	155	670	
6	953	146	807	
7	923	131	792	
8	1,001	134	867	
9	944	135	809	
10	798	134	664	
11	880	125	755	
12	927	127	800	
2023 - 1	866	129	737	
2	785	125	660	
3	822	131	691	
4	737	138	599	
5	667	138	529	
6	777	143	634	
7	726	142	584	
8	801	139	662	
9	788	135	653	
10	824	137	687	
11	818	140	678	
12	859	144	715	
2024 - 1	881	138	743	

資料：中央蚕糸協会(2012.12~2018.10) (一財)大日本蚕糸会(2018.11~)

Source: Central Raw Silk Association (2012.12~2018.10). The Dainippon Silk Foundation (2018.11~)

(14) 蚕糸関係品目別輸入状況
Breakdown of Silk-Related Products Imports

	単位 Unit	2018	2019	2020	2021	2022	2023	前年比(%) 2023/2022
生糸・玉糸計 Raw Silk and Doupion Silk	俵 Bales of 60kg	5,038	4,852	2,443	3,067	3,646	2,936	80.5
絹糸 Silk Yarn	俵 Bales of 60kg	11,092	10,920	6,226	6,136	7,945	7,495	94.3
野蚕糸 Wild Raw Silk	俵 Bales of 60kg	18	22	12	18	11	28	254.5
繭 Cocoon	kg	7,000	5,000	3,400	2,400	2,000	400	20.0
くず繭 Waste Cocoon	kg	6,829	982	1,818	5,274	2,536	857	33.8
その他の絹 くず Other Silk Waste	kg	89,045	24,629	47,904	114,521	62,480	49,794	79.7
絹のくず計 Silk Waste Total	kg	95,874	25,611	49,722	119,795	65,016	50,651	77.9
絹紡糸 Spun silk yarn from silk waste other than noil	kg	286,235	251,731	180,505	234,643	234,118	177,869	76.0
絹紡糸 Spun silk yarn from noil silk	kg	149,274	123,741	109,845	131,126	151,494	112,902	74.5
絹織物 Silk Fabrics	m ²	4,150,559	3,893,201	2,551,036	2,753,029	2,803,182	2,514,930	89.7

資料：財務省関税局

Source : The Customs Bureau, Ministry of Finance

(15) 生糸の原産国別輸入数量
Raw Silk Imports

(単位：60kg 俵)
(Unit: Bales of 60kg)

国名 Country	計 Total	中国 China	ブラジル Brazil	ベトナム Vietnam	タイ Thailand	その他 Others
年 月 Year & Month						
暦年 Calendar Year						
2015	6,479 (58)	5,569 (49)	887 (9)	20	2	—
2016	6,546 (52)	5,378 (44)	1,142 (8)	24	2	—
2017	7,560 (68)	6,008 (62)	1,456 (5)	91	2	1
2018	5,038 (51)	3,484 (46)	1,446 (5)	50	59	—
2019	4,852 (67)	3,620 (51)	1,228 (13)	—	3 (3)	—
2020	2,443 (30)	1,294 (25)	1,145 (5)	—	—	4
2021	3,067 (31)	1,852 (25)	1,182 (5)	—	—	—
2022	3,646 (45)	2,402 (44)	1,222	—	22 (1)	—
2023	2,936 (52)	1,880 (52)	986	50	19	—
2022 - 1	379 (8)	253 (8)	115	—	11	—
2	222 (5)	122 (5)	100	—	—	—
3	541	372	169	—	—	—
4	—	—	—	—	—	—
5	500	374	126	—	—	—
6	426 (10)	225 (10)	202	—	—	—
7	291	260	30	—	—	—
8	473 (5)	235 (5)	229	—	10	—
9	149	109	40	—	—	—
10	187 (5)	151 (5)	36	—	—	—
11	297 (5)	191 (5)	105	—	—	—
12	180 (6)	109 (5)	71	—	1 (1)	—
2023 - 1	271 (10)	117 (10)	154	—	—	—
2	179	111	68	—	—	—
3	295 (5)	253 (5)	40	—	1	—
4	—	—	—	—	—	—
5	460	231	229	—	1	—
6	221	170	—	50	1	—
7	218	120	87	—	10	—
8	354 (10)	264 (10)	87	—	3	—
9	198 (10)	132 (10)	66	—	—	—
10	218 (5)	163 (5)	55	—	—	—
11	364 (11)	253 (11)	111	—	—	—
12	157	65	89	—	3	—
2024 - 1	234 (2)	234 (2)	—	—	—	—

資料：財務省関税局

備考：1. kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。

2. () 書きは、玉糸の輸入数量で内数である。

Source: The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks: 1. Country volume may not add up the total volume due to round off.

2. Figures in parenthesis indicate the break down for doupion silk imports.

(16) 絹糸の原産国別輸入数量
Silk Yarn Imports

(単位：60kg俵)
(Unit: Bales of 60kg)

年 月 Year & Month	国 名 Country	計 Total	中 国 China	ベトナム Vietnam	イタリア Italy	アメリカ USA	ブラジル Brazil	その他 Others
暦 年 Calendar Year								
2015		14,051	7,928	5,586	4	0	531	2
2016		12,094	7,289	4,074	16	0	711	4
2017		14,560	8,431	5,256	10	0	862	0
2018		11,092	6,217	4,031	10	0	802	32
2019		10,920	6,658	3,489	16	—	757	1
2020		6,226	3,516	2,124	3	0	582	1
2021		6,136	3,472	2,217	2	0	442	3
2022		7,945	4,670	2,665	2	0	608	0
2023		7,495	4,309	2,572	3	—	610	1
2022 -	1	588	353	220	—	—	15	—
	2	484	260	167	—	—	57	—
	3	667	463	173	—	0	30	—
	4	412	214	143	—	—	55	—
	5	857	438	342	—	—	76	—
	6	703	469	143	0	—	90	—
	7	893	554	284	—	0	56	—
	8	764	379	313	—	—	71	—
	9	688	455	207	—	—	25	—
	10	642	367	244	1	—	30	—
	11	739	430	218	0	—	92	—
	12	509	287	211	—	—	10	0
2023 -	1	650	364	185	—	—	101	—
	2	309	238	15	—	—	55	—
	3	705	537	143	—	—	25	—
	4	514	271	233	—	—	10	—
	5	742	371	217	1	—	154	—
	6	791	596	195	0	—	—	—
	7	578	290	238	—	—	51	—
	8	742	395	296	—	—	50	0
	9	681	384	239	0	—	58	—
	10	599	346	226	1	—	25	0
	11	658	284	325	1	—	48	—
	12	526	233	260	—	—	33	0
2024 -	1	492	336	156	—	0	—	0

資料：財務省関税局

備考：kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。

Source：The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks：Country volume may not add up the total volume due to round off.

(17) 生糸・絹糸の主要輸入国からの輸入数量と単価
Raw Silk and Silk Yarn Imports in Major Countries

単位：俵、円/kg
Unit: bale of 60kg, yen/kg

項目 Item	輸入生糸（通関ベース） Raw Silk Imprt				輸入絹糸（通関ベース） Silk Yarn Import					
	中国 China		ブラジル Brazil		中国 China		ブラジル Brazil		ベトナム Vietnam	
	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price
暦年 Calendar Year										
2015	5,520	6,803	879	8,199	7,928	6,908	531	9,261	5,586	7,283
2016	5,334	5,614	1,134	6,164	7,289	5,764	711	6,654	4,074	5,946
2017	5,946	6,574	1,451	6,517	8,431	6,762	862	7,381	5,256	6,627
2018	3,438	7,973	1,441	7,857	6,217	8,090	802	8,551	4,031	7,754
2019	3,569	6,561	1,215	7,067	6,658	6,426	757	7,703	3,489	6,782
2020	1,269	6,243	1,140	6,587	3,516	6,415	582	7,441	2,124	6,627
2021	1,852	7,096	1,183	6,390	3,472	7,177	442	7,154	2,217	6,676
2022	2,358	8,878	1,222	9,124	4,670	9,496	608	10,387	2,665	9,557
2023	1,828	9,499	986	10,302	4,309	9,874	610	11,679	2,572	9,946
2022 - 1	245	8,104	115	7,528	353	8,346	15	8,423	220	7,713
2	117	8,382	100	7,700	260	8,633	57	8,411	167	7,716
3	372	8,372	169	7,689	463	8,646	30	8,583	173	8,385
4	—	—	—	—	214	8,871	55	8,822	143	9,048
5	374	9,118	126	9,037	438	9,600	76	9,824	342	9,365
6	215	8,889	202	9,132	469	10,100	90	9,885	143	9,583
7	260	8,987	30	10,208	554	9,623	56	11,211	284	10,240
8	230	8,956	229	10,064	379	9,575	71	11,292	313	9,986
9	109	9,488	40	10,084	455	9,878	25	10,797	207	10,121
10	146	9,383	36	11,078	367	10,105	30	12,240	244	10,547
11	186	9,679	105	10,563	430	10,177	92	12,391	218	10,894
12	104	8,966	71	10,104	287	9,633	10	11,374	211	9,908
2023 - 1	107	8,577	154	9,724	364	9,238	101	10,705	185	9,185
2	111	9,322	68	9,899	238	9,001	55	11,256	15	11,271
3	248	9,059	40	9,667	537	9,450	25	11,647	143	9,058
4	—	—	—	—	271	9,490	10	11,069	233	9,072
5	231	9,266	229	9,864	371	9,510	154	11,338	217	9,411
6	170	9,259	—	—	596	9,872	—	—	195	10,033
7	120	9,362	87	10,617	290	10,258	51	12,109	238	10,330
8	254	9,413	87	10,314	395	10,133	50	11,964	296	9,986
9	122	10,059	66	10,956	384	10,128	58	12,519	239	10,370
10	158	10,118	55	10,388	346	10,522	25	12,029	226	9,878
11	242	10,088	111	11,326	284	10,528	48	12,767	325	10,411
12	65	10,296	89	10,893	233	10,672	33	12,782	260	10,753
2024 - 1	232	10,147	—	—	336	10,230	—	—	156	10,613

資料：財務省 通関統計による、単価はC I F価格である。

Source : The customs Bureau ,Ministry of Finance

Remarks : A unit price is CIF price.

(18) 絹織物生産数量
Production of Silk Fabrics

(単位：1,000㎡)
(Unit: 1,000sq. meters)

品 種 Type of Fabrics	総 数 Grand Total	絹・絹紡織物 Silk and Spun Silk Fabrics							
		広 巾 織 物 Double Width				小 巾 織 物 Single Width			その他の 後練(後染) Other Piece Dyed Silk Fabrics
		計 Total	羽二重類 Habutae	クレープ類 Crepe	先 練 (先染) Dyed Yarn	計 Total	ちりめん類 Silk crepe	先 練 (先染) Dyed Yarn	
年 月 Year & Month									
暦 年 Calendar Year									
2015	2,316	1,228	664	35	529	630	283	347	458
2016	2,243	1,191	620	38	533	603	266	337	449
2017	2,195	1,185	639	50	497	587	272	315	422
2018	2,113	1,151	619	45	487	578	272	306	384
2019	1,939	1,128	583	43	502	521	242	279	290
2020	1,214	697	460	15	222	364	169	195	153
2021	1,319	840	587	9	244	336	128	208	143
2022	1,444	1,016	716	0	300	280	72	208	148
2022 -									
1	104	71	51	0	19	22	7	15	12
2	124	90	61	0	29	22	6	16	12
3	124	87	66	0	21	24	6	18	13
4	126	87	70	0	17	25	6	19	15
5	123	89	64	0	25	23	5	18	11
6	145	105	76	0	29	24	6	18	16
7	121	82	65	0	18	24	7	17	15
8	112	78	63	0	15	23	6	17	11
9	104	70	47	0	23	24	6	18	11
10	118	81	55	0	26	24	6	18	13
11	121	88	51	0	37	24	6	18	10
12	121	88	48	0	40	23	7	17	9
2023 -									
1	106	75	52	0	23	23	7	16	8
2	99	65	45	0	20	23	6	17	12
3	104	63	48	0	15	25	7	18	16
4	112	73	54	0	19	25	7	18	14
5	113	77	48	0	29	24	7	17	12
6	110	72	47	0	25	25	7	18	12
7	100	63	45	0	18	25	8	17	11
8	101	68	44	0	24	23	7	16	10
9	93	59	41	0	18	23	6	17	10
10	102	68	42	0	26	25	7	18	9
11	107	73	42	0	31	24	7	17	10
12	95	61	40	0	21	23	7	16	10
2024 -									
1	94	61	44	0	17	23	7	16	10

資料：(一社)日本絹人織織物工業会(～2020.6) 経済産業省生産動態統計(2020.8～)

備考：1. 絹紡と交織を含む。単位以下四捨五入。

2. 2023年分までデータ補正がある。

Source: Japan Silk & Rayon Weaver's Association(～2020.6).

Ministry of Economy, Trade, and Industry, Current Production Statistics(2020.8～)

Remarks: 1. Spun and mixed fabrics included. Fractions of 0.5 and over counted as a whole number and the rest disregarded.

2. Data are corrected until 2023.

(19)丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量
Production of Silk Fabrics in Tango , Nagahama and Nishijin

項目 Item	絹織物生産数量 Silk Fabrics Production		丹後 Tango (白生地) (White Fabrics)		長浜 Nagahama (白生地) (White Fabrics)		西陣 Nishijin (帯) (Sash)	
	数量 Quantity (千㎡) (1,000㎡)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	推定出荷数量 Estimated Shipments (本)	前年(月)比 Ratio to previous year
年月 Year & Month								
暦年 Calendar Year								
2015	2,316	84.7	351,309	87.8	41,893	78.8	526,417	87.6
2016	2,243	96.8	310,271	88.3	38,063	90.9	488,144	92.7
2017	2,195	97.9	294,451	94.9	36,227	95.2	477,594	97.8
2018	2,113	96.3	282,158	95.8	36,316	100.2	426,796	89.4
2019	1,939	91.8	253,429	89.8	27,584	76.0	380,224	89.1
2020	1,214	62.6	154,333	60.9	10,852	39.3	260,360	68.5
2021	1,319	108.6	153,627	99.5	12,321	113.5	303,511	116.6
2022	1,444	109.5	158,982	103.5	11,988	97.3	281,796	94.4
2023			147,196	92.6	11,657	97.2	254,378	90.4
2022 - 1	104	115.2	10,399	104.7	983	127.2	22,277	113.5
2	124	131.2	12,746	107.9	982	107.9	20,744	98.4
3	124	126.9	12,376	107.4	863	76.4	25,113	93.8
4	126	118.8	14,948	104.8	1,111	147.2	26,693	101.3
5	123	113.2	11,207	96.7	1,127	118.4	22,216	89.5
6	145	118.2	14,645	110.9	1,237	142.2	26,282	90.4
7	121	111.3	14,540	99.1	996	106.2	22,233	91.3
8	112	115.8	11,938	118.9	939	87.6	20,915	86.3
9	104	93.7	13,993	103.3	845	77.4	24,163	98.3
10	118	100.1	14,932	98.3	1,109	106.8	23,440	88.9
11	121	92.7	13,737	101.3	961	65.7	23,932	89.5
12	121	91.2	13,521	94.5	835	62.8	22,127	91.4
2023 - 1	106	102.1	9,451	90.9	1,011	102.8	24,615	110.5
2	99	80.0	12,892	101.1	836	85.1	19,786	93.6
3	104	83.6	11,963	96.7	901	104.4	24,475	97.5
4	112	88.8	13,330	89.2	878	79.0	23,422	89.2
5	113	91.9	11,894	106.1	1,197	106.2	22,043	100.1
6	110	75.9	13,523	92.3	952	77.0	23,807	89.1
7	100	82.4	13,194	90.7	1,121	112.6	18,686	83.9
8	101	90.4	8,952	75.0	855	91.1	16,250	76.8
9	93	89.2	14,213	101.6	684	80.9	20,410	81.2
10	102	86.5	12,354	82.7	989	89.2	19,502	83.2
11	107	88.1	12,399	90.3	1,030	107.2	20,270	83.5
12	95	78.5	13,030	96.4	1,203	144.1	19,688	90.7
2024 - 1	94	88.3	8,032	85.0	885	87.5	14,648	61.1
2			13,377	103.8	1,043	124.8		

資料 : 絹織物生産数量は(一社)日本絹人織織物工業会(～2020.6) 経済産業省生産動態統計(2020.8～)

主要3産地の生産量、出荷数量は各産地組合の発表による。

備考 : 1. 西陣は京都府織布生産動態調査数値の修正により前年比が合わない場合がある。

2. 絹織物生産数量の数値は2023年分までデータ補正がある。

Source : Japan Silk & Rayon Weaver's Association(～2020.6).

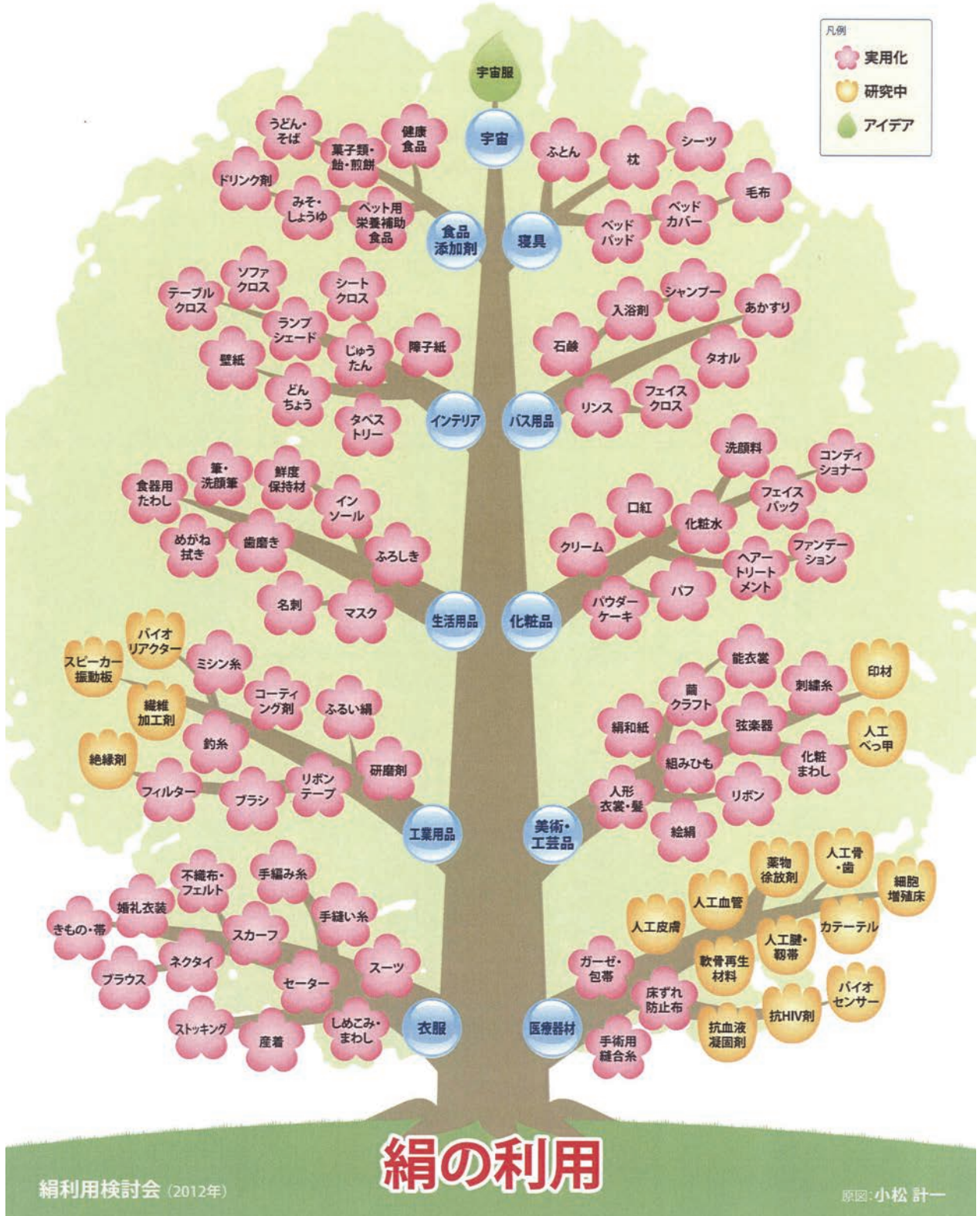
Ministry of Economy, Trade, and Industry, Current Production Statistics(2020.8～)

The numbers of Production and Shipments of 3major producing areas are reported by their local unions.

Remarks : 1. Ratio to previous year in Nishijin may become incorrect if there is a correction in the statistical survey on the production dynamics of woven fabrics in Kyoto prefecture.

2. The figures of silk fabric production quantity are corrected until 2023.

絹利用の系統樹



—資料・海外—

(1)世界主要国の家蚕繭生産数量

Domesticated Silkworm Cocoon Production in Major Countries

区 分		2017年	2018年	2019年
		トン	トン	トン
日本	Japan	125	110	92
中国	China	417,655	365,636	298,708
インド	India	161,684	185,560	185,143
ウズベキスタン	Uzbekistan	12,480	17,912	21,374
イラン	Iran	664	589	1,407
タイ	Thailand	4,863	4,858	5,011
ブラジル	Brazil	3,039	3,055	3,047
ベトナム	Vietnam	7,355	8,145	11,855
北朝鮮	North Korea	2,607	2,500	2,643
トルコ	Turkey	102	94	90
ブルガリア	Bulgaria	18	-	-
インドネシア	Indonesia	18	18	18
シリア	Syria	0	0	1
主要国の計	Total	610,610	588,477	529,389

区 分		2020年	2021年	2022年
		トン	トン	トン
日本	Japan	80	61	51
中国	China	233,645	157,000	99,682
インド	India	169,345	187,241	199,752
ウズベキスタン	Uzbekistan	20,942	22,770	24,300
イラン	Iran	1,794	1,680	2,309
タイ	Thailand	3,715	3,593	3,693
ブラジル	Brazil	2,742	2,211	1,807
ベトナム	Vietnam	14,937	16,444	16,824
北朝鮮	North Korea	2,643	2,643	2,591
トルコ	Turkey	90	76	69
ブルガリア	Bulgaria	-	-	-
インドネシア	Indonesia	18	21	24
シリア	Syria	1	2	1
主要国の計	Total	449,952	393,742	351,103

注 日本は(一財)大日本蚕糸会、インドはインド繊維省中央蚕糸局(CSB)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国はFAOの統計値を使用。

Note Figures of japan are based on the data of the The Dainippon Silk Foundation, Ministry of Textiles in The Dainippon Silk Foundation.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB), Ministry of Textiles in India.

Others than these countries, based on the data of International Sericulture .

(2)世界主要国の家蚕生糸生産数量

Domesticated Raw Silk Production in Major Countries

区 分		2017年		2018年		2019年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	20	339	21	339	16	269
中国	China	142,000	2,366,667	120,000	2,000,000	68,600	1,143,333
インド	India	22,066	367,767	25,344	422,400	25,239	420,650
ウズベキスタン	Uzbekistan	1,200	20,000	1,800	30,000	2,037	33,950
タイ	Thailand	680	11,333	680	11,333	700	11,667
ブラジル	Brazil	600	10,000	650	10,833	469	7,817
ベトナム	Vietnam	520	8,667	680	11,333	795	13,250
イラン	Iran	120	2,000	110	1,833	227	3,783
北朝鮮	North Korea	365	6,083	350	5,833	370	6,167
トルコ	Turkey	30	500	30	500	5	83
インドネシア	Indonesia	3	50	3	50	3	50
ブルガリア	Bulgaria	10	167	10	167	10	167
シリア	Syria	0	0	0	0	1	17
主要国の計	Total	167,614	2,793,572	149,678	2,494,622	98,472	1,641,202

区 分		2020年		2021年		2022年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	12	203	10	160	10	168
中国	China	53,359	889,317	46,700	778,333	50,000	833,333
インド	India	23,896	398,267	25,818	430,300	27,654	460,900
ウズベキスタン	Uzbekistan	2,037	33,950	2,037	33,950	2,037	33,950
タイ	Thailand	520	8,667	503	8,383	435	7,250
ブラジル	Brazil	377	6,283	373	6,217	375	6,250
ベトナム	Vietnam	969	16,150	1,067	17,783	1,067	17,783
イラン	Iran	270	4,500	272	4,533	275	4,583
北朝鮮	North Korea	370	6,167	370	6,167	370	6,167
トルコ	Turkey	5	83	5	83	5	83
インドネシア	Indonesia	3	50	3	50	3	50
ブルガリア	Bulgaria	10	167	9	150	10	167
シリア	Syria	1	17	1	17	1	17
主要国の計	Total	81,829	1,363,820	77,168	1,286,127	82,242	1,370,701

注1 日本は(一財)大日本蚕糸会、インドはインド繊維省中央蚕糸局(CSB)の統計値をそれぞれ使用、
それ以外の国は国際養蚕委員会(ISC)の統計値を使用した。

Note:1 Figures of Japan are based on the data of the Dainippon Silk Foundation.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB), Ministry of Textiles in India.

Others than these countries, based on the data of International Sericulture Commission (ISC).

(3) 中国繭絲綢交易市場における各種シルク現物価格 Spot Price of Various Silk Goods

2023年11月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)	3A-4A	151.00 ~ 163.80	3,171 ~ 3,440
2	乾繭(dried cocoon)	5A-6A	171.00 ~ 189.00	3,591 ~ 3,969
3	玉繭(double cocoon)		118.50 ~ 137.00	2,489 ~ 2,877
4	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	148.20 ~ 181.60	3,112 ~ 3,814
5	生糸(raw silk)	21d、国内販売	473.20 ~ 498.80	9,937 ~ 10,475
6	生糸(raw silk)	21d、輸出販売	478.20 ~ 503.20	10,042 ~ 10,567
7	生糸(raw silk)	42d、工場検査	465.80 ~ 483.80	9,782 ~ 10,160
8	玉糸(doupion silk)	110d	454.00 ~ 464.00	9,534 ~ 9,744
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
9	羽二重(habutae)	56吋(inch)8匁(mom)	42.50 ~ 47.50	893 ~ 998
10	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	62.50 ~ 67.50	1,313 ~ 1,418
11	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	53.00 ~ 57.00	1,113 ~ 1,197
12	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	46.50 ~ 50.00	977 ~ 1,050

注:1元=21円

1CNY=21JPY

2023年12月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)	3A-4A	150.25 ~ 164.00	3,005 ~ 3,280
2	乾繭(dried cocoon)	5A-6A	171.00 ~ 189.00	3,420 ~ 3,780
3	玉繭(double cocoon)		115.63 ~ 136.25	2,313 ~ 2,725
4	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	141.25 ~ 176.25	2,825 ~ 3,525
5	生糸(raw silk)	21d、国内販売	472.75 ~ 498.00	9,455 ~ 9,960
6	生糸(raw silk)	21d、輸出販売	477.75 ~ 503.00	9,555 ~ 10,060
7	生糸(raw silk)	42d、工場検査	465.25 ~ 485.00	9,305 ~ 9,700
8	玉糸(doupion silk)	110d	454.00 ~ 464.00	9,080 ~ 9,280
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
9	羽二重(habutae)	56吋(inch)8匁(mom)	42.50 ~ 47.50	850 ~ 950
10	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	62.50 ~ 67.50	1,250 ~ 1,350
11	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	53.00 ~ 57.00	1,060 ~ 1,140
12	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	46.50 ~ 50.00	930 ~ 1,000

注:1元=20円

1CNY=20JPY

資料:中国繭絲綢交易市場(浙江省、嘉興)発表

Source:China Silk Exchange(Zhejiang Sheng Jia Xing)

2024年1月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)	3A-4A	150.40 ~ 164.40	3,008 ~ 3,288
2	乾繭(dried cocoon)	5A-6A	171.40 ~ 189.00	3,428 ~ 3,780
3	玉繭(double cocoon)		111.00 ~ 136.00	2,220 ~ 2,720
4	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	135.00 ~ 175.00	2,700 ~ 3,500
5	生糸(raw silk)	21d、国内販売	474.20 ~ 501.80	9,484 ~ 10,036
6	生糸(raw silk)	21d、輸出販売	477.40 ~ 506.80	9,548 ~ 10,136
7	生糸(raw silk)	42d、工場検査	466.80 ~ 487.40	9,336 ~ 9,748
8	玉糸(doupion silk)	110d	454.80 ~ 464.80	9,096 ~ 9,296
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
9	羽二重(habutae)	56吋(inch)8匁(mom)	42.50 ~ 47.50	850 ~ 950
10	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	62.50 ~ 67.50	1,250 ~ 1,350
11	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	53.00 ~ 57.00	1,060 ~ 1,140
12	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	46.50 ~ 50.00	930 ~ 1,000

注:1元=20円

1CNY=20JPY

2024年2月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)	3A-4A	151.00 ~ 165.00	3,171 ~ 3,465
2	乾繭(dried cocoon)	5A-6A	172.50 ~ 189.00	3,623 ~ 3,969
3	玉繭(double cocoon)		111.00 ~ 136.00	2,331 ~ 2,856
4	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	135.25 ~ 175.25	2,840 ~ 3,680
5	生糸(raw silk)	21d、国内販売	482.75 ~ 513.50	10,138 ~ 10,784
6	生糸(raw silk)	21d、輸出販売	485.00 ~ 519.25	10,185 ~ 10,904
7	生糸(raw silk)	42d、工場検査	475.50 ~ 496.00	9,986 ~ 10,416
8	玉糸(doupion silk)	110d	457.50 ~ 468.50	9,608 ~ 9,839
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
9	羽二重(habutae)	56吋(inch)8匁(mom)	42.50 ~ 47.50	893 ~ 998
10	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	62.50 ~ 67.75	1,313 ~ 1,423
11	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	53.25 ~ 57.00	1,118 ~ 1,197
12	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	46.50 ~ 50.00	977 ~ 1,050

注:1元=21円

1CNY=21JPY

お詫び 2020年11月区分5および6の生糸の規格に変更がありましたが、前号まで変更前の規格をそのまま掲載しておりました。

区分5 (変更前)21d、工場検査→(変更後)21d、国内販売

区分6 (変更前)21d、検驗局検査→(変更後)21d、輸出販売

※「シルクレポート」の記事と統計データは、下記のホームページでもご覧になれます。

<https://silk.or.jp>

シルクレポート 2024年4月号 No.81 令和6年4月1日発行

編集 / 発行

一般財団法人大日本蚕糸会

〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-9-4 蚕糸会館6階

TEL : 03-3214-3500

FAX : 03-3214-3415

URL : <https://silk.or.jp>

製本 / 印刷

株式会社正大印刷社

無断転載禁ず